

平成29年度 建設界の担い手確保・ 育成に関する取り組みについて

- ① 平成29年度の部会活動総括 P 1
- ② 各部会の取り組み報告 P 3

平成30年 2月 1日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会

平成29年度 各県部会の開催状況

- 平成29年6月に第1回各県（新潟、富山、石川）を開催。
平成29年度の取り組み方針等を議論し、各部会の体制や活動予定を共有。
- 平成29年12月に第2回各県（新潟、富山、石川）を開催。
平成29年度の活動の情報共有と、平成30年度に向けた、活動内容について議論を実施。
※新潟県部会については、メール等を用いて情報共有等を実施している。

平成29年度 第1回 県部会 開催概要

【新潟県部会】平成29年6月22日（木）10:00～10:00
 【富山県部会】6月27日（火）15:30～17:00
 【石川県部会】6月2日（金）15:00～16:30
 【開催地】北陸地方整備局、富山河川国道事務所、金沢河川国道事務所

平成29年度 第2回 県部会 開催概要

【新潟県部会】平成29年12月
 【富山県部会】平成29年12月26日（火）14:00～15:30
 【石川県部会】12月14日（木）15:00～16:30
 【開催地】富山河川国道事務所、金沢河川国道事務所



第1回新潟県部会



第1,2回富山県部会



第1回石川県部会

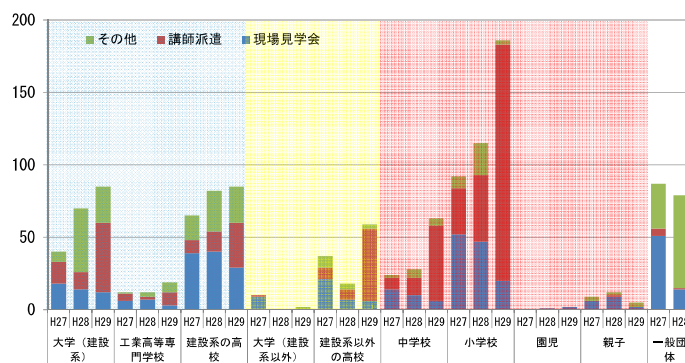
平成29年度 建設界の担い手確保・育成に関する取り組みについて

- 平成29年度、各機関の活動数は677件であり、そのうちの24%が他機関・団体と連携し行われている。
- 対象別では、建設系の学生以外を対象とした取り組みでは、昨年度の協議会で意見のあった中・小・園児・親子を対象とした取組が多く行われている。
- 建設系の学生、建設系以外の大学、高校への取り組みともに増加している。
- 今年度、インターンシップとして298人の学生、生徒を受け入れており、特に建設系の高校生を多く受け入れている。

表-1

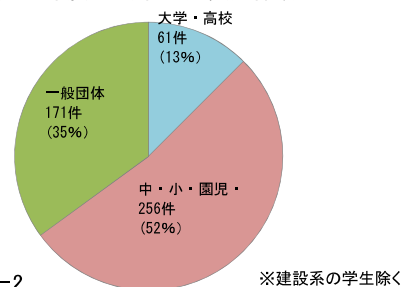
年度	建設系の学生 対象	建設系の学生以外を対象			合計	各機関で連携・ 合同で取り組ん だ件数
		大学・高校	中・小・園児・親子	一般団体		
H27年度	117 31%	47 13%	125 33%	87 23%	376 100%	164 44%
H28年度	164 39%	18 4%	156 37%	79 19%	417 100%	171 41%
H29年度	189 28%	61 9%	256 38%	171 25%	677 100%	162 24%

平成29年度 対象別取り組み件数



グラフ-1

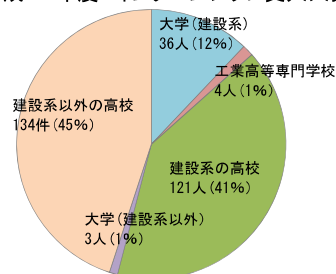
平成29年度 取り組み別実施件数



グラフ-2

※建設系の学生除く

平成29年度 インターンシップ受入人数



グラフ-3

全体で298人を受入

平成29年度 建設界の担い手確保・育成に関する取り組みについて(参考資料)

【留意事項】

本資料は、平成29年度の各機関・団体で、対象毎にどのような取り組みを行ったのか、幅広く事例を集め、各機関・団体が次年度以降の取り組みを考えるうえでの参考とすることを目的に整理したものです。

実施件数は概ねの傾向を把握するために集計したものです。(※各機関・団体の判断により取り組みを分類し、報告頂いているため、分類の不整合を含みます。)

	平成27年度				平成28年度				平成29年度			
	現場見学会	講師派遣	その他	合計	現場見学会	講師派遣	その他	合計	現場見学会	講師派遣	その他	合計
大学(建設系)	18	15	7	40	14	12	44	70	12	48	25	85
工業高等専門学校	6	5	1	12	7	2	3	12	3	9	7	19
建設系の高校	39	9	17	65	40	14	28	82	29	31	25	85
大学(建設系以外)	9	1	0	10	0	0	0	0	0	0	2	2
建設系以外の高校	21	8	8	37	7	7	4	18	6	50	3	59
中学校	14	8	2	24	10	12	6	28	6	52	5	63
小学校	52	32	8	92	47	46	22	115	20	163	3	186
園児	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	2
親子	6	0	3	9	9	1	2	12	2	0	3	5
一般団体	51	5	31	87	14	1	64	79	26	12	133	171
一般団体含む	216	83	77	376	149	95	173	417	106	365	206	677
	現場見学会	講師派遣	その他	合計	現場見学会	講師派遣	その他	合計	備考	0	その他	その他
一般団体除く	165	78	46	289	135	94	109	338	80	353	73	506

- ・北陸地方における建設界の担い手をめぐる現状や課題に関する認識を共有し、建設界の担い手不足に対し、建設関係団体、教育機関、関係行政機関等が一体となって、担い手の確保・育成の取り組みを推進することを目的として、平成26年10月3日 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会を設立。
- ・平成29年度の活動を推進するため、新たな取り組みの実施、取り組みの展開について検討。

開催概要

【新潟県部会】 平成29年6月22日（木）10:00～12:00

- ・〔会場〕 北陸地方整備局 4F合同会議室
- ・〔出席機関〕

[行政] 北陸地整、新潟労働局、新潟県土木部・教育委員会、新潟市

〔建設産業〕 日建連北陸支部、新潟県建設業協会、建設リサイクル協会北陸支部、新潟県測量設計業協会、新潟県地質調査業協会、日本道路建設業協会北陸支部
〔教育〕 新潟大学、長岡技術科学大学、新潟工業高校

〔教育〕新潟大学、長岡技術科学大学、新潟工業高校



新潟県部会状況

検討結果

平成28年度新潟県部会の活動結果をふまえ、専門高校・各大学への取り組みも今までどおり実施し、「建設業と繋がり無し学生（他分野）・生徒・小中学生・園児」に対する取り組みを担い手カレンダー等を利用し各組織連携して進める。

※担い手カレンダー：現場見学スケジュール等を整理したカレンダー



新潟大学工学部 佐伯教授

意見等

- ①学校のスケジュールを押さえるには、前年度の年明けには学校を訪問して理解をしてもらうことが必要。(県の担当ラインから)各教育委員会へ依頼文を出している。1度見学に来ると次回以降の対応は容易になる。(建設業界を)女性の職場とっていないため、説明は女性が活躍している職場のアピールが効果的である。
- ②現場を見学することは有効で、学習していることが実際に役立つことがわかる。事前に施設の目的、経緯を学習すると、より効果的に学生生徒に伝わる。
- ③キャリア教育については、総合的な学習の一環で普通科高校の現場見学も可能。普通科高校でも太学進学を見据えたインターンシップを取り入れている。



新潟工業高校 副校長

北陸担い手確保推進協新潟
専門高メッセ参加検討
17年度活動で意見交換



行政機関と建設産業団体、
教育機関が三位一体となって

見学時に説明会も 若者がICT化に興味

担い手協
新潟県部会

説明会も T化に興味

建設業界の人材不足解消に取り組む「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会」の新潟県支部会会長・黒田勇一が22日、新潟市の同局で開かれた一写真。

2016年度の活動実績によると、新潟県と新潟県建設業協会、建設コンサルタント協会の北陸支部が連携し、県内の中学校で土木出版PRを実施した。このほか、児童、生徒、学生向けの現場見学会（日本建設業連合会北陸支部、新潟建協など）、PRブックレットの作成（新潟県測量設計業協会）、女性フェスティバル（同局）、女性技術者を講師とした中学生向けの建設学習会（専官共催）、専門高校メッセ（新潟県教育委員会）にも取り組んでいる。会では、「大學生が抱く就職先のイメージと現実のギャップを埋めるためにさまざまな現場、職種を見せたい」との意見が挙がった。また、「現場を見るだけでなく、ものづくりの魅力は十分に伝わらないので、社会資本がどういった経路で整備され、地域に貢献しているのかを説明してほしい」と要望した。さらに「カリキュラムが決まってしまうと、出前講座はできてしまう」と、組み込むのを難しくなる。「現場のICT化が若手の興味喚起につながる」「現場見学会では交通手段などを用意しなければならぬが、開催回数を重ねることに経費がかかるとして、専門高校メッセで調査、設計、施工までの一連の流れを紹介してほしい」と17年度の声も聞かれた。

今年度の活動では、参画機関、団体の取り組みが共有できる担い手カレンダールを活用しながら、現場見学会、出前講座などの実効性を高めていく。

[illegible]

H29.6.23
建設通信新聞

H29.6.23
建設工業新聞

問い合わせ先:北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会新潟県部会事務局(北陸地方整備局企画課内) TEL. 025(280)8834、内線 3158、3181

問い合わせ先:北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会新潟県部会事務局(北陸地方整備局企画課内) TEL 025(280)8834、内線 3158、3181

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会 (H29.6.27) 開催概要

- 今年度第1回目となる**富山県部会を平成29年6月27日(火)に開催**。昨年度の協議会での議論をレビューし、本年度の体制・活動予定等について情報共有。
- 意見交換では、教育機関より**学生の就職希望の動向や学部新設に向けた協力依頼**、業界各機関より**ICT活用の情報発信や今後の活動に向けた提案**等があった。
- H29も引き続き、**県内産学官の関係者の連携のもと活動を進めていくことで合意**。

開催概要

日時 平成29年6月27日(火) 15:30~17:00

会場 富山河川国道事務所 3F大会議室

構成機関(順不同)

【行政】北陸地整備政部/富山河川国道事務所、富山労働局、富山県土木部/教育委員会
【教育】富山大学、富山県立大学、富山工業高校、桜井高校、高岡工芸高校、南砺福野高校

【業界】日建連北陸支部、富山県建設業協会、建設コンサルタツ協会北陸支部、富山県測量設計業協会、富山県地質調査業協会、日本道路建設業協会北陸支部

【オブ】黒部河川事務所、立山砂防事務所、利賀ダム工事事務所、伏木富山港湾事務所

会員からの主な発言

- ・県内に待望の土木系学部ができる予定。富山県部会の各機関からの協力もいただきながら、産学官で連携した課題解決を図っていく。
- ・保護者への活動では、懇談会参加者から「建設業へのイメージが変わった」との声もあった。本年は活動内容を現場見学会などにも広げていく。
- ・協会内で実施した若手アンケートで「i-Construction」への関心の高さが伺えた。大学との連携し、イベント等でUAVや3D設計をPRしていく予定。
- ・女性は結婚により離職するケースがある。結婚後も続けられる魅力的な環境を作るためにも、ICT活用を進めていくべき。
- ・建設業への入職・定着促進の為に各種支援制度があるので活用いただきたい。

開催状況



北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会 (H29.12.26) 開催概要

- 平成29年12月26日に**第2回富山県部会を開催**し、各機関の**H29年度取組状況の報告、次年度の取組・連携協力体制について意見交換**を実施した。
- 就職を控えた生徒の多くが県内建設系企業への就職を希望しているなど、取組が評価できる面もある一方、生徒の進路に影響を与える**保護者への取組の充実等**の課題があがった。
- **担い手の県内定着に向け、県外からの学生へのアプローチの視点も重要等**の意見が出された。
- **引き続き、産学官の関係機関の連携のもと平成30年度も取組を進めていくことで合意**した。

開催概要

日時 平成29年12月26日(火) 14:00~15:30

会場 富山河川国道事務所 3F大会議室

構成機関(順不同)

【行政】北陸地整備政部/富山河川国道事務所、富山労働局、富山県土木部/教育委員会
【教育】富山大学、富山県立大学、富山工業高校、桜井高校、高岡工芸高校、南砺福野高校

【業界】富山県建設業協会、建設コンサルタツ協会北陸支部、富山県測量設計業協会、富山県地質調査業協会、日本道路建設業協会北陸支部

【オブ】黒部河川事務所、立山砂防事務所、利賀ダム工事事務所、伏木富山港湾事務所

各機関からの主な発言

- ・情報系の学生に建設系の情報をうまく提供すれば学生も興味湧く。情報系の先生方とマッチングをとるのが良いと考えている。
- ・県外からの学生に定着してもらうことが重要で、定着してもらうには、富山の土地・生活・仕事における魅力といった視点での取組が必要と思う。
- ・今年も、建設業への就職を希望している生徒が親御さんの意向により他業界へと進路変更をした事例がある。保護者への働きかけを考えることが重要。
- ・今年実施した保護者向け見学会は、次年度は参加人数を拡大していきたい。
- ・測量・設計業界としては、つくるモノがない中で現場見学会の開催が難しい面もあるが、最新の機器を体験してもらう等の取組を用意していきたい。

開催状況



- 6月2日に産学官が連携した「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会【第1回石川県部会】」を開催しました。1月31日の本協議会意見を踏まえて、今年度の県部会の具体的な取り組み方針について意見交換を行いました。
- 参加機関からは、この春の建設分野における就職の現状についての報告がなされ、学生側が興味のある、仕事のやりがいや処遇改善の取り組みなど、「働き方改革」に関するアピールを進めて行くことが重要であるとの意見が出されました。
- 各機関からは、H29年度の取組予定などの紹介され、**昨年同様、産学官が協力して様々な取り組みを進めていくことを関係者で合意しました。**

開催概要

【日 時】平成29年6月2日（金）15:00～16:30

【開催地】金沢河川国道事務所

【出席機関】

【行政】金沢河川国道事務所、石川労働局、石川県土木部・教育委員会
【建設産業】日建連北陸支部、石川県建設業協会、建設コンサルタツ協会
北陸支部、石川県測量設計業協会、石川県地質業協会
【教育】金沢大学、金沢工業大学、金沢市工高、石川県立羽咋工高・
翠星高校、石川県立大学(H29年からワザバー参加)

会議の主な発言要旨

- H28年度は、大学関係では卒業生が全てが土木分野の企業に就職してくれた。高校でも企業側の求人も高く、ここ20年間で就職をした学生が一番多い年であった。（斎藤委員、川村委員、小酒委員、塩田委員）
- 業界では、女性技術者を別枠で採用している。環境や機械等、建設分野以外の採用も進めており、普通高校の学生により補っている企業や県外の学生で採用を補填している企業もある。（松井委員、地中委員、新家委員、尾蔵委員）
- H29年度は福祉分野と連携し、県内の普通高校56校全てを周り、建設業界に目を向けてもらうPR活動を取り組む予定である。（念介委員代理）
- 学生の情報系学科の人気は高い。コンサルでも情報系学生のニーズもあるが、現場の即戦力を期待する面もあり採用には二の足を踏む。（川村委員、新家委員）
- 環境系学部から建設分野に就職してもらうには、学生の知識に併せて、1年生から継続的な働きかけが重要。（瀧本オブザーバー）
- 今年度も連携を取りながら、取り組みを行っていくことを確認。（参加各機関）

開催状況



＜富山・石川県部会長あいさつ＞



＜各委員の討議状況＞

H29年度 建設界の担い手確保・育成推進協議会【石川県部会】 開催報告

- 12月14日に産学官が連携した「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会【第2回石川県部会】」が開催され、今後各機関の実施結果の紹介と次年度に向けての意見交換が行われました。
- 参加機関からは、**建設系学科を修学した生徒の建設分野への就職率が向上**してきているなど、協議会の取り組みに手応えを感じる一方、**中学生や保護者など一般の方々を含めたアプローチにはまだまだ課題がある等**の意見が出されました。
- 各機関からは、H30年度の取組予定などの紹介され、**本年同様、産学官が協力して様々な取り組みを進めていくことを関係者で合意しました。**

開催概要

【日 時】平成29年12月14日（木）15:00～16:30

【開催地】金沢河川国道事務所

【出席機関】

【行政】金沢河川国道事務所、石川労働局、石川県土木部・教育委員会
【建設産業】日建連北陸支部、建設コンサルタツ協会北陸支部、石川県測量設計業協会、石川県地質業協会、日道建北陸支部
【教育】金沢大学、金沢工業大学、石川高専、金沢市工高、石川県立羽咋工高、小松工高、翠星高校、石川県立大学(ワザバー参加)

会議の主な発言要旨

- オープンキャンパス等の参加状況を見ると、建築に比べ、土木の魅力が浸透していないと感じる。官民が協力して社会、家庭、高校生、中学生へ土木の魅力をもっと真剣に発信すべきだと感じる。（川村委員、斎藤委員）
- 建設関係団体の支援を受け、体感型の現場見学会の実施、コンペの参加など、生徒が自分で考え、身近に建設業を感じる取り組み等、建設業への就業率の向上に努めている。引き続き支援をお願いしたい。（小酒、塩田、稲葉委員、古澤代理）
- 新卒の建設業の就業者の約7割が非建設系高校の卒業生であり、県内全55の普通高校を訪問し、保護者、教員も含め、将来の進路を見据えた活動を進めている。今後は中学校まで拡大した取り組みの必要性は感じている。（念介代理）
- 建設系学生の建設分野への就職率向上は、協議会活動の手応えの1つとして感じるが、建設界の入口である中学生や社会一般への建設分野のPRはまだまだ難しい部分でもある。引き続き、連携して取り組んでいく必要がある。（参加各機関）

開催状況



＜富山・石川県部会長あいさつ＞



＜各委員の討議状況＞



平成29年度 建設界の担い手確保・ 育成に関する取り組みについて

②平成29年度の活動事例紹介

【新潟県部会】 P 1～10

【富山県部会】 P11～27

【石川県部会】 P28～56

平成30年 2月 1日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会

平成29年度 建設界の担い手確保・
育成に関する取り組みについて

【新潟県部会】

平成30年 2月 1日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会



小学校では、様々な体験を通して勤労観・職業観を育むとともに、身近な仕事への関心と地域社会との繋がり等を考えさせる取組みの「キャリア教育」を推進しており、ものづくり産業を支える「人づくり」に取組む大会として、これに協力し、小学生等が、社会資本整備の重要性とその使命、価値に対する理解を深めることを目的に平成20年度から実施。

また、施設見学とともに、建設業が安心して暮らしていくために重要な役割を担っていることや建設業の魅力などを紹介する座学も設け、「建設界」について考える貴重な機会として、積極的に取り組んでおります。

終了後の感想文では、安全に快適に暮らすために、建設や土木に関わる人が努力していることへの理解が深まったという回答を得ることができました。

◇ H29開催概要 ◇

【見学場所】

・大河津分水新可動堰・信濃川大河津資料館・魚道の観察室

【実施校】

- ・ 9月15日(金) 魚沼市立須原小学校 4年生 14名
- ・ 9月15日(金) 魚沼市立入広瀬小学校 3, 4年生 18名
- ・ 9月28日(木) 新潟市立大鷲小学校 4年生 10名
- ・ 11月 2日(木) 新潟市立笹口小学校 4年生 49名
- ・ 11月17日(金) 魚沼市立広神西小学校 4年生 26名
- ・ 11月17日(金) 魚沼市立広神東小学校 4年生 28名
- ・ 11月24日(金) 新潟市立木崎小学校 4年生 61名
- ・ 11月29日(水) 新潟市立五十嵐小学校 4年生 111名

◇ 感想文の主な回答 ◇

- ・ 日本海に流すために、可動堰と洗堰で水の量を調節し、必要な量の水だけ信濃川に流れていることがよく分かりました。
- ・ 大河津分水ができてからは信濃川による大水害はなくなって、私たちの生活を守ってくれていることが分かりました。
- ・ DVDで建設業についてすごく学べて、大工になりたいという気持ちがもっと大きくなりました。



(信濃川大河津資料館)



(大河津分水新可動堰)



(大河津出張所操作室)



(魚道の観察室)



高校生の現場見学会



県内の建設系高等学校の生徒に、建設工事現場の見学を通して、建設業の社会的役割と魅力等を理解してもらい、建設業への入職促進に資することを目的に平成3年度から実施。

終了後のアンケートでは、土木への感心が深まったので、これからの進路・将来に活かしていきたいなどという回答を得ることができました。

◇ H29開催概要 ◇

実施日	実施校・見学現場
8.24(木)	塩沢商工高等学校 機械システム科 2年生12名 ・姫川港西ふ頭
9.6(水)	加茂農林高等学校 環境緑地科 2年生38名 ・大谷ダム ・八十里越建設現場(橋梁上部工事)
9.21(木)	高田農業高等学校 農業土木科 2年生35名 ・弁天大橋架替改良工事現場 ・木島地区は場整理工事現場
11.6(月)	新発田南高等学校 土木工学科 2年生36名 ・一般県道島見新発田線 大夫野野拓幅道路改良工事現場

◇ アンケート一部紹介 ◇

Q1.学校(大学・短大・専門学校・高校)卒業後の就職先は・・・

- | | |
|----------------|-------|
| a.建設関係に就職したい | 38.7% |
| b.建設関係以外に就職したい | 14.3% |
| c.わからない | 41.2% |
| d.その他 | 5.8% |

Q2.(Q1.でaと答えた人)建設関係の仕事につきたい理由は・・・

- | | |
|----------------|-------|
| a.社会に貢献できる | 45.7% |
| b.創り上げる喜びがある | 43.5% |
| c.建設関係に知人がいるから | 6.5% |
| d.その他 | 4.3% |

Q3.もし、建設業に就職しようとする場合、何に一番関心がありますか。

- | | | | |
|-------------|-------|------------|-------|
| a.給料体系 | 9.7% | b.休日・労働時間 | 24.2% |
| c.就職後の仕事の内容 | 35.5% | d.仕事で必要な資格 | 19.4% |
| e.会社の経営方針 | 6.5% | f.福利厚生 | 3.2% |
| g.その他 | 1.5% | | |

感想

- ・ 建設業は工事現場ごとに作業内容が違うやりがいのある仕事だと思った。自分が携わり造ったものが長い間、形として残っていくのに大変魅力を感じた。
- ・ 建設業などの仕事は3Kのイメージが強かったが、実際見学してみてもあんまり感じなかったので、見学できて良かった。
- ・ 女性も働ける環境が整っていたので、とても良いなと思った。
- ・ 学校では学べないこともたくさん学ぶことができて、とても充実した一日だった。優しくやり方を教えてくださり、とてもよい職場だなと感じた。





インターンシップは、学校と産業界が連携し、産業の現場等で生徒が在学中に自分の学習内容や進路などに関連した就業体験を行うもので、将来の生き方や進路を考えるうえで有意義であることから、当協会としても若年人材の確保対策の一環として平成11年度から実施に取り組んでいます。

デュアルシステムは、建設系工業高校と地域や産業界が連携し、企業での現場実習を行うもので、工業教育の改善・充実と地域や産業界の人材育成・確保を目指すもので、10日間の現場実習で実践的な職業知識や技能・技術の習得と勤労観・職業観を身に付けるために平成18年度から実施に取り組んでいます。

◇ H29実施概要 ◇

・インターンシップ 生徒数128名 協力企業数50社
・期間 平成29年7月5日～8月29日、10月11日～13日の間の2・3日間

協力支部	参加校	生徒数	受入協力企業者数
新 発 田 支 部	県立新発田南高等学校	39名	9社
新 津 支 部	県立新津工業高等学校	3名	1社
新 潟 支 部	県立新潟工業高等学校	8名	6社
三 条 支 部	県立新潟県央工業高等学校	36名	10社
三 条 支 部	県立見附高等学校	3名	1社
小 千 谷 支 部	県立小千谷西高等学校	1名	1社
魚 沼 支 部	県立塩沼商工高等学校	2名	2社
六 日 町 支 部	県立塩沼商工高等学校	21名	12社
上 越 支 部	県立上越総合技術高等学校	14名	8社
糸 魚 川 支 部	県立海洋高等学校	1名	1社

・デュアルシステム 生徒数4名 協力企業数3社
・期間 平成29年7月27日～8月25日の間の10日間

協力支部	参加校	生徒数	受入協力企業者数
与 板 支 部	県立正徳館高等学校	1名	1社
六 日 町 支 部	県立塩沼商工高等学校	1名	1社
上 越 支 部	県立上越総合技術高等学校	2名	1社

◇ 生徒感想文 ◇

【反省】

- ・積極的に発言・質問をすればよかった。
- ・現場で仕事をしている人への挨拶の声が小さかった。
- ・遠慮せずにもっと積極的に取り組みれば良かった。



【感想】

- ・触ったことがない機会に触ってみたりとても良い経験が出来た。今の季節にしか行けない港湾工事に行けたことが嬉しかった。
- ・安全が一番大切な事。仕事の大変さ、いろんな会社と協力して作業する事の大切さを知った。
- ・土木の現場、工事の重要性に触れ、土木が我々の生活を支えていることを知り、やりがいを感じた。

【今後の抱負】

- ・感謝の気持ちを忘れず、あたりまえのことがあたりまえにできる人間になりたい。
- ・二日間の経験を生かして、授業を積極的に受け将来に生かしていけるように頑張ります。
- ・土木の仕事の重要性とやりがいに触れ、将来は地盤に残るような仕事をしたい。

中学生等「出前講座」土木PR



中学校が体験している様々な体験を通して、建設産業の社会的役割等について、理解を深めてもらうため、ものづくり産業を支える「人づくり」に取り組む当会としてこれに協力し、中学生等が社会資本整備の重要性和その使命、価値に対する理解を深めることを目的に実施。

建設業(土木)をPRすることで、建設業が安心して暮らしていくために重要な役割を担っていることや建設業の魅力などを紹介する座学も設け、「建設界」について考える貴重な機会として、積極的に取り組んでいます。

◇ H29開催概要 ◇

出席者4団体

- ・新潟県
- ・(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部
- ・(一社)新潟県測量設計業協会
- ・(一社)新潟県建設業協会

◇ PRの様子 ◇



説明の状況



測量体験



ドローン操作

実施日・実施校

日 時:平成29年5月19日(金) 学校名:津南町立津南中学校 2年生	日 時:平成29年5月25日(木) 学校名:十日町市立下条中学校 2年生
日 時:平成29年6月14日(水) 学校名:県立荒川高等学校 2年生	日 時:平成29年6月20日(火) 学校名:長岡市立北辰中学校 全学年
日 時:平成29年6月27日(火) 学校名:小千谷市立東小千谷中学校 3年生	日 時:平成29年6月29日(木) 学校名:関川村立関川中学校 2年生
日 時:平成29年7月4日(火) 学校名:県立十日町総合高等学校 1年生	日 時:平成29年9月20日(木) 学校名:新発田市立川東中学校 3年生
日 時:平成29年9月28日(木) 学校名:十日町市立川西中学校 2年生	日 時:平成29年10月31日(火) 学校名:村上市立山北中学校 2年生
日 時:平成30年1月18日(木) 学校名:魚沼市立堀之内中学校	日 時:平成30年1月26日(金) 学校名:魚沼市立広神中学校
日 時:平成30年1月31日(水) 学校名:五泉市立川東中学校	日 時:平成30年2月23日(金) 学校名:県立栃尾高等学校

【感想】

- ・みんなの生活を守っていてかっこいい！
- ・女性活躍しているすごいと思った。
- ・一番心に残ったのは、土木・建設の仕事をする人がまちを支えているということ。
- ・ドローンや測量機器を実際見たり、映像を見たりでき、とても分かりやすかった。



- ・建設界が担う役割や目的、その魅力について理解を深め、将来、建設界が就職先の選択肢の1つとなることを狙い、昨年度に引き続き、関係団体と連携した土木出張PRを開催（12月末時点、県内各地域で10回開催）。

開催状況の一例（概要）

平成29年6月27日（火）13:50～15:40

・〔会場〕小千谷市立東小千谷中学校

・〔出席者〕

〔中学校〕東小千谷中学校生徒3年生 48名

〔行政〕長岡地域振興局地域整備部

〔関係団体〕

新潟県建設業協会、建設コンサルタント協会北陸支部、新潟県測量設計業協会



ドローンによるデモ飛行

出張PRの概要

- ・建設、コンサル、測量、行政のそれぞれの立場から、仕事の魅力、やりがい等について発表
- ・測量器械やドローンを用いて、測量デモンストレーションを実施。実際に器械をのぞき、距離を測定
- ・女性技術職員が、女性が働きやすい環境であることをPR



測量器械体験



女性技術職員からの説明

参加した生徒、学校関係者からの感想

- ・ドローンがすごかった。
- ・新しく知れたことばかりだったので、よかったです。
- ・とびをやってみたい。
- ・女性でも活躍できる職業はすごいと思った。
- ・それぞれの人たちが自分の仕事に誇りを持っていることが分かった。
- ・土木のイメージが変わった。土木の大切さを知った。
- ・私たちの知らないところで、この町全体の建物などを協力してつくっていて、すごいと思った。



参加者全員で記念撮影

【担い手確保】新発田南高校土木工学科の皆さんによる現場見学会

No. 6

国土交通省

- ・「北陸建設界の担い手確保・育成協議会」の設立趣旨に基づき、羽越河川国道事務所が実施。
- ・台風21号の影響で現場見学会場を変更 鷹ノ巣道路事業現場→コマツIOTセンタ北陸

開催概要

平成29年10月24日（火）13:30～15:30

・〔会場〕コマツIOTセンタ北陸

・〔出席者〕・新発田南高校土木工学科

生徒43名、教師2名

・北陸地方整備局 羽越河川国道事務所

アイコンストラクションの概要説明

- ・建設現場の生産性に関する現状を説明【羽越河国】
- ・国土交通省が推進しているアイコンストラクションの概要説明【羽越河国】
- ・コマツが全国展開しているスマートコンストラクションの概要説明【コマツレンタル】



アイコンストラクションの概要説明状況

ICT建機のデモ、UAVの実演等

- ・マシンコントロールブルドーザの実演
- ・UAVによる三次元起工測量の実演
- ・その他

後日、学生43名全員から感想文をいただいた。

- ・建設業界では60代以上の方が、たくさん働いていることに驚いた。

- ・ICT技術を活用した、最新の建設技術を見学して、いい経験になった。

- ・土木建設業に携わる仕事をして、やりがいを感じられるようになりたい。



デモ、実演状況

【開催要旨】

- 長岡工業高等専門学校「建設技術史」の講義に、北陸地方整備局、長岡国道事務所、信濃川河川事務所、湯沢砂防事務所から、非常勤講師を派遣。
- 来年のインターンシップ、再来年の進路決定にあたり、建設分野の仕事や土木行政についてよく知ってもらうことが目的。

【平成29年度の実施状況】

- ①平成29年5月26日（金）信濃川河川事務所 森田副所長
（テーマ）河川の管理
- ②平成29年6月 2日（金）北陸地方整備局 企画部 黒田環境調整官
（テーマ）社会資本整備
- ③平成29年6月 9日（金）長岡国道事務所 星野事務所長
（テーマ）道路の歴史と役割
- ④平成29年6月16日（金）長岡国道事務所 ①松本計画課長、②齋藤工務係長
（テーマ）①道路について、②私とケンセツ業（社会人14年目、現在に至るまで）
- ⑤平成29年6月23日（金）湯沢砂防事務所 ①福田副所長、②徳野工務課技官
（テーマ）①土砂災害と砂防事業について、②国土交通省に入省してからのお仕事
- ⑥平成29年6月30日（金）長岡国道事務所 茨木保全対策官
（テーマ）道路構造物老朽化対策

【参加者】 長岡工業高等専門学校 環境都市工学科3年生 42名



河川に関する講義



社会資本整備に関する講義



道路に関する講義



砂防に関する講義

「総合学習」へのニーズを捉えた支援～新発田市立猿橋中学校の事例～

No. 8



国土交通省

- ・新潟県道事務所では、通年において、学校からの要請による総合学習・職場訪問を支援。
- ・今年度からよりニーズに合った総合学習・職場訪問をしていただくために調査票を作成してもらうことにした。
- ・カリキュラムを新潟県道事務所から示すことによって、学校側から「葛代橋」の説明も伺いたいとの申し入れがあった。

新潟道庁事務所 計画課 収
FAX: 025-246-7783 TEL: 025-246-7775
j-n-j-n-mura-mura@niet.go.jp

環境見学者希望確認票

記入日: 平成 28 年 8 月 29 日

目的	総合的学習 職場訪問	
環境見学者自白	平成 27 年 10 月 25 日 9 時 00 分 - 10 時 30 分まで	
環境見学者所	環境保護課	その他()
所属	エナジー	エナジー
住所	新潟市立鏡橋中学校	
性別	男 女	
電話番号	新潟市住吉町 1-7-1	
連絡先		
訪問人数	保護者 4~5 人 小学生 人 中学生 人 高校生 人 計 4~5 人	
学業や就学について	小学生 低学年 小学校 中学年 小学校 高学年 中学生 高校生 大学生以上の学生 社会人 その他()	
事前の質問について	* ルーペにより決定後、総合的学習 後日送付させていただきます。	
その他のご希望	* 時間については 4:00 - 14:30 までであればご都合の良い 時間をお知らせ下さい。 * 高代橋中学校の総合的学習の可能な日、敬希いたします。	
新潟道事務所等の訪問先	高代橋中学校にて実施する予定です。	
新潟道事務所等の訪問先	新潟市中央区	
新潟道事務所等からの写真	⑤	

図表内容などからケルムの作成する上で、事前に申し込ましき、ご記入についてご協力ください。
※今回企画する環境見学会において使用する資料であり、それ以外の目的で使用することはありません。

良かった点

学校側のニーズを聞くことによって、カリキュラムやテキストに反映でき、より細かい支援ができた

開催概要：新発田市立猿橋中学校

平成29年10月25日(土) 9:00~11:35

- ・〔会場〕 新潟国道事務所情報管理室、萬代橋
- ・〔出席者〕 〔生徒〕 4名
- ・猿橋中学校では、毎年4～5名の班に分かれて、新潟市内にある企業を訪問。
- ・新潟国道事務所では、例年情報管理室にて、「道路の管理」のみの説明を行っていたが、今年度は「萬代橋」の現場見学も実施。



事務所の概要を説明



「道路の管理」を説明



街を散策しながら萬代橋の痕跡を見る(初代萬代橋親柱～3代目萬代橋)

生徒の感想

- ・今回学んだ事を学習や生活に取り入れ、道路をはじめ様々なものに関心を持ちたり大切にしていきたい。
- ・皆さんの力があってこそ、私たちの生活が成り立っているという事を改めて感じた。
- ・今回の体験を通して、道路や橋について興味をもつことができました。

- ・国道7号朝日温海道路起工式実行委員会（国、新潟県、村上市）では、平成29年9月9日（土）に朝日温海道路起工式を挙行。
- ・地元小学生も太鼓の演奏を行うなど式典に参加。
- ・式典の前後に、地元小学生に対し建設機械の乗車や事業の概要説明を行った。

開催概要：村上市立三面小学校

- ・〔会場〕新潟県村上市大須戸地先
- ・〔出席者〕〔児童、保護者〕36名
- ・猿沢小学校、塩野町小学校、さんぼく北小学校からも1名の児童、保護者が参加



トンネル工事の概要説明（受注業者）



トンネル建設機械の説明（受注業者）



建設機械前で記念撮影（右上：建設機械乗車体験）

良かった点

- ・式典と担い手確保・育成とのコラボ、そこに官民が協力することによって、式典が華やぎ、児童に対しても建設業について積極的にPRできた。双方にとって相乗効果があるイベントとして成功した。
- ・児童に、通常体験することができないトンネル建設機械への乗車やトンネル工事の概要を紹介することができた。

「ほくぎひろば」で小学生がバリアフリー体験をしました

No. 10



北陸技術事務所

◆総合学習支援体験パーク「ほくぎひろば」において、小学生がバリアフリー体験をしました。

◆体験状況

- 新潟市立大野小学校 6年生
- 開催日：平成29年9月15日（金）、19日（火）
- 時間：13：10～15：10
- 実施内容：「車いす体験」
「視覚障害者体験」
「高齢者体験」
- 体験者：56名

■報道結果

- 新聞 2紙（9/19 1紙、9/30 1紙）
- ※北陸技術事務所構内には「車いす体験」、「視覚障害者体験」及び「高齢者体験」ができる体験学習場「ほくぎひろば」が整備されています。



新潟日報（H29.9.30）



はじめの会



車いす体験



視覚障害者体験



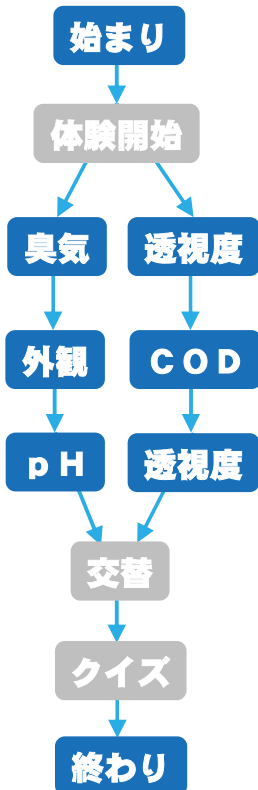
高齢者体験

H29ほくぎひろば（水質体験学習）

No. 11

H29.5.31～ 6. 1

新潟市立鳥屋野小学校（4年生155名）



信濃川との
位置関係



臭気



外観



pH



透視度



COD



けんせつフェア北陸in新潟2017の開催について

No. 12

けんせつフェア
実行委員会

- ◆11月1日（水）、2日（木）とけんせつフェア北陸in新潟2017を開催しました。
- ◆「生産性革命を支える建設技術」をキャッチフレーズに152社、326技術の展示され、約4,700人の来場者を迎え、多くの建設技術者に情報交換の場を提供することができました。



主催者挨拶
小俣北陸地方整備局長



来賓挨拶
奥谷大臣官房技術参事官



テープカットの様子



屋内展示場の様子



屋外展示場の様子

◆ 合同企業セミナー

新潟県内の大学、高専、高校から2日間で約600名の学生が招待され、熱心に展示ブースを見学していただきました。「合同企業セミナー」に参加した学生からは、「進路や就職先の選択に非常に参考になった」などの意見があり、担い手確保の一環としての成果が現れました。



【企業説明を熱心に聞く学生】



【合同企業セミナー】



【展示技術プレゼンテーション】

◆ グルッと体験 ICT ICT特設展示会場

建設機械メーカ4社
によるMCの実演デモを
行いました。



ICT建設機械による施工実演状況



ICT建設機械学生の見学（体験）状況 2

信濃川治水歴史巡りを開催 ～新潟港と信濃川の歴史を学び先人たちに思いを馳せる旅！

No. 13

信濃川下流河川事務所



信濃川下流河川事務所では2019年に開港150年を迎える新潟港や信濃川の洪水と治水の歴史を巡るツアーを開催しました。

当日は40名の参加者とともに新潟港や信濃川の治水の要である大河津分水路や関屋分水路、最新技術による工事を発信するICT情報館、三条防災ステーションなどを巡りました。

バスで巡るツアー



ウォーターシャトル船上から見学



法光院での横田切れ説明状況



ICT情報館にて



大河津資料館にて

日時：平成29年10月28日（土）8：00～17：00

参加者数：40名（応募総数365名）

行程：①みなとぴあ乗船場（ウォーターシャトル）～新潟西港から信濃川水門・関屋分水路～鳥屋野潟排水機場
②ふるさと村降船場（バス）～曾川切れ記念碑～酒屋の鮭と川港～まわり土手
③ICT情報館 ④三条防災ステーション
⑤横田切れ記念碑
⑥大河津資料館 ⑦道の駅国上～客土の丘～夏井のはざ木～鰐湯跡～新川・西川の立体交差
⑧法光院

信濃川下流河川事務所では、**水難事故防止及び川と親しむ担い手確保**の取組として小学生を対象に講習会を実施しています。

今回、三条防災ステーションで講習会を行い、三条市立大島小学校4年生のみんなにEボートの乗船体験を通じて、ライフジャケットの正しい着用方法や川で流された場合の姿勢など、**川で遊ぶための基本的な知識**を身につけてもらいました。



日 時：平成29年9月5日（火）
10：45～11：45
場 所：三条防災ステーション船着き場
対 象：三条市立大島小学校4年生13名 + 先生 2 名

「北陸地方整備局見学デー」の開催

No. 15 国土交通省

【概要】

開催日：平成29年8月18日（金）
会 場：北陸地方整備局内及び構内（9:30～15:30）
来場者：約500名（H28：約150名）
・施設見学者 | 267名（H28：135名）
・車いす、高齢者疑似体験者 | 130名（H28：65名）
・降雨体験車 | 458名
・地震体験車 | 400名

主な対象者：夏休み中の親子

【目的】

北陸地方整備局の業務内容を広く知ってもらおうと共に、市民の防災意識向上及び将来の担い手の確保を図る。
併せて、職員の家族に、職場への理解を深めてもらう。

【ポイント】

職員の家族は、庁舎内で職員が仕事をしている姿も見学。

【実施状況】



屋上 見学



災害対策室 見学



免震構造 見学



車いす 体験



鳴り砂 体験



特殊車両 展示



建設業等説明 パネル展示



水路模型 体験



イベント状況



ガイダラー(全6間)



庁舎計測 体験

【実施状況】



通信体験



建設機械ラジコン 体験



地震体験車



降雨体験車

【報道結果 (TV2社・新聞3社)】

新潟日報 平成29年8月19日(土)(32)

災害時の拠点 すごいぞ

北陸地方整備局で見学会
夏休みの親子ら参加

国土交通省北陸地方整備局は18日、新潟県中央区の新潟県防災センターにある防災体験施設で、親子ら約30組を対象に「災害時の拠点 すごいぞ」と題した見学会を開催した。参加者は、防災センターの各フロアを回り、防災設備や避難所としての活用方法などを学び、防災意識を高めることができた。

見学会では、防災センターの各フロアを回り、防災設備や避難所としての活用方法などを学び、防災意識を高めることができた。参加者は、防災センターの各フロアを回り、防災設備や避難所としての活用方法などを学び、防災意識を高めることができた。



大型モニターが、北陸地方整備局の防災設備を見学する参加者。18日、新潟県中央区。

NHK

・平成29年8月18日(金) 18:16
新潟ニュース610(新潟地方版)



UX(ANN系)

・平成29年8月18日(金) 18:30
・UX スーパーJにいがた(新潟地方版)



平成29年度 建設界の担い手確保・
育成に関する取り組みについて

【富山県部会】

平成30年 2月 1日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会

- 実施日時：平成29年10月31日（火） 13:45～14:45
- 場 所：宇奈月ダム
- 対 象：富山県立桜井高等学校 土木科1年生40名
- 主 催：黒部河川事務所
- 共 催：富山県建設業協会 入善支部

- 内 容：
 - ・国土交通省の組織、黒部河川事務所の事業全般
 - ・堤体内監査廊（プレキャスト工法）見学
 - ・排砂設備のゲートやライニング材の工夫の見学
 - ・排砂路操作室の見学 等



ダム堤体内監査廊見学



恒例のダムカード贈呈

案内の最後に桜井高校の土木科のクラス会長より、『**排砂路に固い石（段戸石）で補強されているなど、私たちの生活を守るために様々な工夫がされていることに驚きました。**』と土木技術への感想とお礼がありました。

案内を行ったダム課長からは、宇奈月ダムを見学した記念として、恒例のダムカードをプレゼントし、見学会を終えました。

参加した学生からの感想（感想文より抜粋）

- **排砂ゲートを間近で見たことが印象**に残りました。なぜかという、自分が説明を聞いた中でとても興味をひく内容だったからです。
- **実際、排砂する場面をみてみたい**です。
- 僕は、ダムを見に行くことが初めてでした。テレビなどでダムを見たときも迫力がすごいと思っていましたが、**実際に現場に行ってみると比べものにならないくらい**に迫力がすごかったです。
- 宇奈月ダムの監査廊は国内で初めての作りかただったことを初めて知ったし、**安全性などにも配慮してつくっていた**ので、僕も実習のときに安全で素早く行いたいと思いました。
- ダムの特徴は、監査廊やゲート操作室等の**プレキャスト化により、施工期間の短縮とコスト削減**を図ったことで、**迅速で安全な施工**だったことを知りました。



操作室見学



平成29年11月1日(水)
北日本新聞(日刊)

桜井高校生の現場視察（主催：一般社団法人富山県建設業協会）



- （一社）富山県建設業協会では、雇用改善推進事業の一環として、高校生に社会資本整備の必要性を認識していただき若手の人材確保に繋げることを目的に、「高校生の建設現場見学会」を平成3年度から毎年実施。
- 6月2日（金）に黒部河川事務所で開催している河川工事の現場「**平成28年度浦山縦工その2工事**」の縦工ブロック製作現場を視察。
- 視察では、縦工用の異形ブロック（パラクロス12t）のコンクリート打設状況や実際に**バイブレータによる締固め作業を体験**しました。

【視察概要】

実 施 日：平成29年6月2日（金）
視 察 者：桜井高校土木科（3年生）45名他
視察現場：平成28年度浦山縦工その2工事（共和土木（株））

-今回の視察を終えての感想-

- バイブレータの締固めも以外と問題無くできました。
- 学校で実習しているコンクリート打設よりも**規模が大きく、いい経験**ができました。



バイブレータ(φ60mm)による締固め状況



コンクリート打設状況視察

立山砂防事務所では、立山での砂防事業を学生に学んでもらう事を目的として、富山国際大学との連携講義を開催しました。

第1弾として、立山砂防の歴史や事業の概要について大坂事務所長が講義を行い、安政5年の飛越地震による大鷲・小鷲山の崩壊と2度にわたる大土石流の被害や常寺川の特徴、立山砂防事務所の設立と白岩砂防堰堤や泥谷砂防堰堤群・本宮砂防堰堤の建設、砂防工事専用軌道（通称：トロッコ）について学びました。

開催日：平成29年6月1日（木）

時間：13:30～15:30

場所：立山砂防事務所 第2会議室

参加者：学生4名

尾畑学部長



泥谷第1号砂防堰堤にある「護天堰」の碑



大坂事務所長による講義の様子



講義を受ける学生



尾畑学部長を交えての質問タイム

講義後に尾畑学部長（立山砂防女性サロンの会長）を交えて行われた質問タイムでは

- ・トロッコの橋は、全て撤去するのか
- ・本宮砂防堰堤に溜まった土砂は撤去するのか
- ・立山は火山なのか
- ・今後、大鷲や小鷲は崩れる可能性はあるのか

などの質問がありました。また、学生の出身地（京都、長崎、鹿児島、富山）の違いによる土砂災害の形態の相違について、活発な意見が出されました。

今後、富山国際大学との連携講義では

第2弾：6月8日（木）トロッコ乗車、立山カルデラ博物館見学

第3弾：6月22日（木）本宮砂防堰堤視察、立山カルデラ現地視察が予定されています。

富山平野を守る立山の砂防事業について楽しみながら学んでいただくことを目的として、富山県内の高校生を対象にした「SABO体験楽校」を毎年開催しています。今年の「SABO体験楽校」では、8名の高校生が工事現場での実体験や砂防事業に携わる人々との交流を通じて、学校の授業では得られない貴重な体験をしました。

開催日：平成29年8月1日（火）～3日（木）【2泊3日】

場所：立山砂防事務所管内

参加校：富山県立桜井高等学校 5名

富山県立富山工業高等学校 3名 計8名

主催：立山砂防事務所

一般財団法人 富山・水・文化の財団



立山カルデラ砂防博物館見学



ドローン操縦体験



天涯の湯清掃



遠隔操作機械操縦体験



協力：松嶋建設（株）



協力：（株）岡部



コンクリート打設体験



協力：新築建設（株）



山腹ロープ作業体験



協力：新築建設（株）



水谷出張所にて



協力：松嶋建設（株）

開校式



開校式の様子

主催者挨拶



閉校式



代表者挨拶

修了証書授与



参加された生徒さんの感想（感想文より）

- ここで学んだ知識をこれからの学習や進路に生かしていきたい
- この体験を終えて、より一層公務員になりたい気持ちが強くなりました
- 実際に現場で働く人を見て、自分の将来について深く考える事ができた
- この体験を通して、自分の将来の選択の機会にしたい
- 常盤寺川を見た時、上流で色々な方々が働いていることを思い出した
- 自分も将来はこのような人達のように仕事をがんばりたい
- 3日間学んだ事を忘れずに将来に生かしていきたい
- これから進路を選ぶ時の考えの1つにしたい

参加いただいた生徒の皆さん、3日間お疲れさまでした。将来、建設に携わる職業に就いていただける事を期待しています！

「立山中央小学校」で出前講座！

暴れ川として有名な常願寺川の特徴や砂防堰堤の役割等々、立山砂防の事業に興味を持ってもらうことを目的として、出前講座を実施しました。

小学生ならではの鋭い感性で質問があり、興味津々な児童がとても頼もしく見えました。

開催日：平成29年6月23日（金）
場 所：立山町立立山中央小学校
参加者：6年生（83名）・教員（6名）



6年1組



6年2組



6年3組



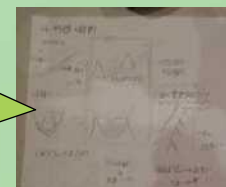
パネル展示にも興味津々



メモをとる児童達



素晴らしいメモ！



【児童からの質問】

- ・砂防堰堤を1基造るのに、どれくらいお金がかかるの？
- ・立山カルデラ内に砂防堰堤はいくつあるの？
- ・立山砂防では何人の人が働いているの？
- ・立山カルデラの面積は？
- ・・・etc

今回の出前講座は、昨年度に引き続き「斜面防災対策技術協会富山支部」が主催となり、当事務所が支援しました（昨年度は、富山市立大庄小学校）。また、来る9月1日（金）には当事務所管内の現場を見学、9月27日（水）には土砂災害の模型等による講座も支援する予定です。

Vol. 25 H29.9.22 『僕ら「さぼう」探検隊！』を開催
砂防堰堤は凄い！ ～富山市立新庄北小学校～

立山砂防事務所では、毎年6月から10月に県内の小学生を対象とし、常願寺川の災害・歴史や立山カルデラの砂防事業について、より理解を深めてもらう事を目的に、『僕ら「さぼう」探検隊！』と称し、「総合的な学習」の支援として体験学習会を開催しています。

開催日 平成29年9月22日（金）13:00～14:30
場 所 立山砂防事務所構内
参加者 富山市立新庄北小学校
6年生：103名 引率者：16名 【計119名】
※今回は、富山法人会青年部会が行う「租税教育バス」の一環として開催されました。



クイズに挑戦！



ジオラマで常願寺川を勉強



土石流って怖い！！

砂防堰堤ってすごいんだ！

今日はとても勉強になりました！
ありがとうございました！

立山砂防の歴史を学ぶ



みんなで砂防を勉強中



土砂災害とは？
●土石流
●地すべり
●がけ崩れ
です。

みんな
覚えたかな？

土砂災害にも種類があるよ
知っているかな？



新庄北小学校のみなさん



ありがとうございました！

今年の6月に続いて、6年生に向けた出前講座を実施しました。今回は、常願寺川の特徴や土砂災害のメカニズム等々について勉強しましたが、今回は、より理解を深めるため土砂災害に関する実験を行いました。児童達は、実際に土砂災害の模型や実験を体験し、いろいろな感想を聞かせてくれました。

開催日：平成29年9月27日（水）
場所：立山町立立山小学校
参加者：6年生（83名）
教員（3名）



【児童の感想】

- 土石流の実験や土砂災害のミニ模型を実際に体験して、とても勉強になりました。
- 土砂災害について、とても勉強になりました。
- 砂防堰堤は土石流を止めるために必要だと思いました。
- 等々沢山の感想を頂きました。

今回の出前講座は、「斜面防災対策技術協会富山支部」が主催となり、当事務所が支援した出前講座です。

第一回目の出前講座は、6月23日に開催しました。
VOL. 13で紹介していますので是非ご覧になって下さい。

今年度
第2弾！

立山砂防事務所では、毎年6月から10月に県内の小学生を対象とし、常願寺川の災害・歴史や立山カルデラの砂防事業について、より理解を深めてもらう事を目的に、『僕ら「さぼう」探検隊！』と称し、「総合的な学習」を支援しています。

開催日 平成29年10月10日（火）11:00～14:30
場所 立山砂防事務所構内
参加者 立山町立利田小学校
6年生:39名 引率者:4名 【計43名】
※今回は、富山県立山土木事務所が行う
「こども砂防教室」の一環として開催されました。



トロッコ体験乗車と砂防堰堤見学

土石流模型実験

土石流体感3Dシアター

新庄北小学校からの依頼を受け、小学4年生に向けて出前講座を実施しました。出前講座では、常願寺川の特徴や土砂災害について、映像や土石流模型等を交えて分かりやすく説明しました。新庄北小学校では、常願寺川に関する教育がとても盛んで、児童からは小学4年生とは思えないほどの鋭い質問や感想をたくさんいただきました。

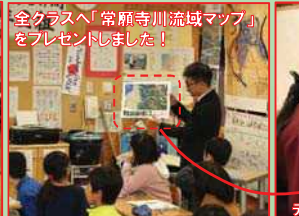
開催日：平成29年11月14日（水）
場所：富山市立新庄北小学校
参加者：4年生（104名）1組～3組
教員（3名）

教室には常願寺川に関するポスターが
たくさん貼られていました！！



【児童からの質問・感想】

- もろくなった堰堤を造り替える時は、また同じように造るのですか？
- 山腹工で種を植えるところへはどうやって行くのですか？
- 砂防堰堤を1基造るのにどのくらいの時間がかかりますか？
- 今でも土砂災害は起こっているから安心してはいけなと感じた。等々



【今回講師を務めた北川企画係長の一言】

小学校4年生の児童達が、立山カルデラや安政5年の大災害、さらにはヨハネス・デ・レイケは勿論、森山茂さんや高田雪太郎さん、そして初代事務所長の赤木正雄さん等々を含め、常願寺川の治水事業について、沢山の事を既に学んでいる事に感動しました。



担い手確保に向けた取り組み ①

- 富山県内高校の土木科等の建設系を学ぶ生徒を中心に実施した現場見学会等では、最新の測量機器やICT技術を活用した建設機械による施工を体験し、建設現場の魅力について理解を深めていただいた。
- また、型枠組立・解体等の専門技術を実体験し、実務の「面白さ」も経験していただいた。



電子黒板の説明



TS測量の体験実習



全員で記念撮影



型枠組立・解体の体験実習



ICT活用技術の説明(MCバックホー)



●今年度は、建設系学生・生徒を対象とする取組以外に、中学生や保護者(中学・高校生)の見学会を開催し、進学先を検討する際の参考としてもらう取り組みも実施。

【H29実績】

- ①県内建設系学科のある全高校
- ②地元(楡原)中学校(全校生対象)
- ③中学・高校生の保護者
- ④大学生等(近県含む)

※①の一部と③は富山県建設業協会主催

③は富山県地域創生人材育成事業の一環として富山県建設業協会に委託

現場に技術者と実際に作業する専門工事の人がいることが分かりました。
自分の子供はどちらに向いているかしら・・・。



地元中学生への事業説明



中学・高校生の保護者説明会



南砺福野高校生が庄川の河川工事を見学



国土交通省北陸地方整備局
富山河川国道事務所

- 平成29年10月19日(木) 午後、富山県立南砺福野高等学校の生徒が「庄川・上伏間江護岸その2工事」の現場を見学を訪れた。
- 見学会では、工事の目的や最新の土木建設機械を使用した工事施工の紹介(ICT土工)と、最新測量機器(ドローン、TS)を使用した測量体験を行ってもらい、社会資本整備の重要性や建設業の魅力などについて理解を深めてもらった。
- 参加した生徒からは、建設業に対する印象が良くなった、建設業への興味が深まった、社会に貢献する仕事であり魅力を感じたなどの感想が寄せられた。

見学概要

- 日時: 平成29年10月19日(木) 13:30~15:00
- 対象: 富山県立南砺福野高校 農業環境課 1・3年生(1年:30名、3年:3名)
- 見学場所: 庄川・上伏間江護岸その2工事(高岡市上伏間江地先)※施工者: 梅本建設工業(株)
- 主催: 一般社団法人 富山県建設業協会(協賛: 富山河川国道事務所)
- ポイント: ①最新の土木建設機械を使用した工事施工(ICT土工)の紹介
②最新測量機器(ドローン、トータルステーション)を使用した測量体験
- その他: 現場担当技術者から入職理由や日頃の経験談などを交えて生徒へエール



ICT土工の説明を受ける様子



ドローンを使用した測量の説明と操作の様子



TS測量の説明と体験の様子

◆提出された感想文から(抜粋)



- 建設の3Kは、周りから見たもので、実際は3Kをなくすために、たくさんの努力をしていると聞き、すごく安心しました。
- 現場の雰囲気を見たときに、みんなコミュニケーションをとっており、また女性の方がおられ、すごく雰囲気が良く嬉しく感じました。



- 今までのイメージが少し変わり、きつくて大変と思っていましたが、安全で機械などを使うので仕事が楽になっていることがわかりました。
- 何年間もかけて少しずつこつこつやるのは大変でしたが、完成後の達成感と感動が楽しみなって頑張れるのかなと思いました。



- 建設の仕事の内容を全く知りませんでした。
(中略) 建設業の魅力にひかれました。建設業は自分がつくったものが地図に残るもので世界で一つのものづくりをするということです。いつまでも地図に刻まれて未来に残っていくこと、それが他の仕事になく建設業にしかないやりがいだと思いました。



- 正直、外は寒いし、暑いし嫌な仕事と思っていました。女性にとってはきつい仕事と思っていたけど、女性でもできる仕事と聞いて、かっこいいなと思いました。
- 私も、この住んでいる地域を守りたいし、すばらしくしたいし、明るい未来をつくっていきたいです。



現場担当技術者からのエール
(上伏間江護岸その2工事 宮崎監理技術者)



現場担当技術者からのエール
(上伏間江護岸その3工事 西川監理技術者)



ドローンから撮影した関係者集合写真

職員や受注業者の親子を対象に現場見学会を開催

利賀ダム工事事務所 1/2

8月23日(水)利賀ダム工事現場と上百瀬土砂災害現場にて親子見学会を開催しました。子どもたちに普段見ることのできないおひるに仕事をしているパパ・ママと一緒に見学してもらうことで、家族の仕事への理解を深めるとともに、建設業の将来の担い手になってもらいたいという主旨の基、利賀村建設業協会と合同で企画したものです。子どもたちは各現場に直接携わっているパパ・ママから説明を受けたり、機械操作体験等を行いました。

親子見学会実施状況 (受発注者親子)

長崎橋 ▶



▲ 庄川橋梁



▲ ダムサイト展望台



▲ 上百瀬(無人バックホウ)

今回の見学会を通じて、以下の感想をいただきました。(一部抜粋)

参加した子供から

- ・お父さんの仕事を見学して思ったことは、家であまり仕事の話をしていないのでどんな仕事をしているのか知ることができてよかった。
- ・今日の見学で、水をためておいたりして、雨が降らなくて水がへってしまったときにそのダムの水を使ったりしてみんなが困らないようにしている仕事ということが分かりました。
- ・とが村で生活するためにがんばってもらっているなどかじりました。ぼくは、しょうらいこういう仕事がしたいです。
- ・わたしは、この仕事見学で、お父さんのしている仕事はすごくやくにたつ仕事だなと思いました。
- ・私のお父さんも、いつも大変なことなどを毎日しているので家で「休んでいいよ。」といってあげたいと思うようになりました。

参加したパパ・ママから

- ・これからは家庭でも子供と仕事の話をする時間を作っていきたいと思います。
- ・子どもには、こんな仕事をしているところ...と折を見て話しているが、建設現場を間近で見せられる 機会は今までに無く、良い機会だった。
- ・親の仕事の内容や土木工事の重要性を理解できたようで大変嬉しく感じました。



- 20 -



心温まる感想をありがとうございました。
今回の見学会を期に親子ともに仲を深め、
建設業に興味を持っていただければ幸いです。

富山工業高校の1年生40名が港湾工事の現場見学会を実施

北陸建設界の担い手確保・育成
推進協議会 参考資料①

平成29年9月5日(火)、「産((一社)日本埋立浚渫協会、富山県港湾建設協会)」「学(新潟工業高等学校)」「官」の3者が連携し、富山工業高校土木工学科1年生40名を対象に、伏木富山港(新湊地区)の港湾工事の現場見学会を実施した。

まず貨物量の増大・コンテナ船の大型化に対応するための既存岸壁の延伸工事についての事業概要の説明を伏木富山港湾事務所から、実際の工事の概要説明を受注者から説明した後、現場見学場所へ移動となった。

見学後の質疑応答では、唯一の女生徒から「(土木業界での)女性の割合はどのくらいですか?」との質問があり、当工事受注者からは「当社では女性社員は5名程度ですが、建設業界では女性社員を増やしているところです。」との回答があり、当事務所からは「国土交通省では女性の割合30%を目指しています」と回答しました。

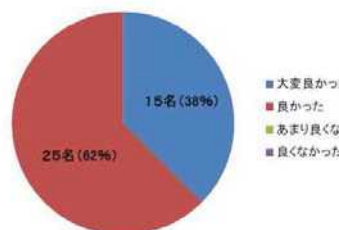
アンケート結果からは、「仕事のイメージが変わった」「港を造る必要性や安全作業が大事なことがわかった」等の回答を得た。

現場見学会の状況

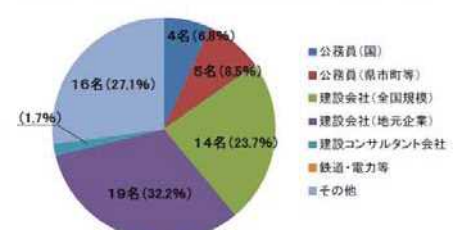
アンケート結果 (対象:男子39名、女子1名)



工事見学会は、参加して良かったと思いますか。



将来の進路は、どのように考えていますか(複数選択可)。



その他、感想、意見、要望等、“生の声”をお聞かせください。

- ・仕事のイメージが変わったのでよかった。
- ・港を造る必要性や安全作業が大事なことが解って良い体験になった。
- ・土木の仕事に興味が増えた。これからは土木について学んでいきたい。
- ・土木の仕事は大変だけどやりがいのある仕事だと思った。
- ・国際物流ターミナル事業は10年かかると聞いていたが5年程で完成すると聞いて驚いた。
- ・土木工事は危険というイメージがあったが現場の方の話の中で安全第一という事を聞いて安心した。
- ・現場を見た感じとしてとても丁寧に仕事をされており真剣さがよく伝わった。

平成29年12月15日(金)、富山河川国道事務所、伏木富山港湾事務所で、富山工業高校土木工学科2年生38名を対象に座学「国土交通省の仕事」として、北陸地方整備局の河川・道路・砂防・港湾の事業について講習を実施した。

1時間目は富山河川国道事務所から「社会資本整備のあゆみ」として、砂防・河川・道路整備の歩みとICT技術を活用したネットワークの構築、広域危機管理体制やTEG-FORCE等の災害への備えを講義し、2時間目は伏木富山港湾事務所から「港湾整備事業について」港の役割や北陸地方整備局の港湾の整備事業、みなとまちづくり等を講義しました。

合計約90分の講義を行い、講義後の質疑応答では、「これから優先的に整備する公共工事は?」「河川・道路・港湾の予算額は?」と鋭い質問ができました。先生からは「担い手不足と言われている土木界だが、担い手確保のため新たに取り組んでいることは?」などの質問がありました。

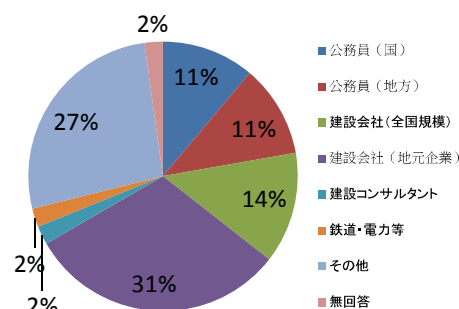
最後は生徒代表のあいさつで、「このような土木関係者の話を聞く機会は貴重な経験となります。将来、土木の道に進む際には役立てていきたい。」と締めくくりました。

講習会の状況



アンケート結果

将来の進路はどのように考えていますか? (複数回答可)



- 22 -

「みなとの見学会」を実施

伏木富山港湾事務所

普段の暮らしにも密接な関わりを持つ伏木富山港について学び、興味や関心、愛着を持ってもらえる機会を提供することを目的として、射水市内小学校及び高岡市内小学校の5年生を対象に「みなとの見学会」を実施した。

合計参加者数は、射水市内小学校5校195名、引率者21名、高岡市内小学校4校169名、引率者25名となった。

【実施内容】

射水市内小学校					
新湊大橋(あいの風プロムナード)を徒歩で見学→富山県営渡船(越の湯フェリー)乗船見学→国際物流ターミナル見学					
6/28 射水市立 作道小学校	5年生	46名	引率者他	4名	
6/30 射水市立 堀岡小学校	5年生	18名	引率者他	3名	
7/8 射水市立 放生津小学校	5年生	35名	引率者他	5名	
7/13 射水市立 新湊小学校	5年生	48名	引率者他	5名	
7/15 射水市立 片口小学校	5年生	48名	引率者他	4名	
合計		195名	21名		

高岡市内小学校					
港湾業務艇「なごかぜ」船上から伏木富山港(伏木地区)を見学→新湊大橋(あいの風プロムナード)を徒歩で見学					
7/6 高岡市立 牧野小学校	5年生	70名	引率者他	10名	
7/11 高岡市立 太田小学校	5年生	14名	引率者他	2名	
7/12 高岡市立 古府小学校	5年生	49名	引率者他	8名	
7/13 高岡市立 伏木小学校	5年生	36名	引率者他	5名	
合計		169名	25名		



みなとを見学(港湾業務艇なごかぜ船上から)



国際物流ターミナル見学



新湊大橋(あいの風プロムナード)見学



富山県営渡船(越の湯フェリー)の説明を聞く児童



みなとを見学(港湾業務艇なごかぜ船内)



国際物流ターミナル見学



新湊大橋前で記念撮影



富山県営渡船(越の湯フェリー)帽子を振り別れの挨拶

建設業における担い手確保・育成に向けた取り組み

(将来の建設業を担う人材の入職・定着・育成①)

将来の建設業を担う人材の入職・定着・育成

⇒県単独事業 **(H29最終年度)** において、

- ・トイレの改装やシャワー設備の改修、最新型の作業服の購入、労働環境改善のための社内規定の整備など、働きやすい職場になるような**労働環境改善への支援を実施**(H27～)



ファン機能付き作業服

【H27-H29実績】

・トイレ等の改修	14社
・最新型作業服導入	13社
・就業規則等の改定	2社

⇒厚生労働省の「地域創生人材育成事業」 **(H29最終年度)** を活用し、

- ・資格取得支援講座（建築施工管理技術、土木施工管理技術検定等）、新入社員向け研修、就職直前技能向上研修、就職PR事業等の**建設人材教育訓練を実施**(H27～)
- ・建設企業における女性や若手従業員の増加に向けて、雇用型訓練と職場外研修を実施し、**建設人材の確保及び育成を行う**(H28～)

土木・建築施工管理技術検定試験の短期集中対策講座や要望の多い技術講習など資格取得に向けての支援講座を開催
また、土木系学科の高校1年生を対象に出前講座を実施。



【H28、H29実績】 14社

新年度、新たに中途採用で女性や45才未満(昨年度は35才未満)の若者の技術者等を雇用して、人材育成を行う建設企業に対して雇用型訓練を委託する。また、短期訓練(3ヶ月)についても新たに対象とする。

- 24 -

建設業における担い手確保・育成に向けた取り組み

(将来の建設業を担う人材の入職・定着・育成②)

高校への出前講座の実施(H28～)

- ・建設業協会と連携し、**県内土木系高校4校の1年生や保護者を対象**に、建設業の社会的役割やものづくりの素晴らしさを伝え、入職促進に関する情報を発信
- ・建設業で活躍する高校OBの若手技術者等から、「仕事内容」や「やりがい」など、**建設業の魅力を紹介**

南砺福野高校

- ・平成29年10月25日(火)
- ・農業環境科30名(1年生 30名)

高岡工芸高校

- ・平成29年10月27日(金)
- ・土木環境科40名、建築科40名(1年生 80名)、保護者

桜井高校

- ・平成29年11月14日(火)
- ・土木科40名(1年生 40名)

富山工業高校

- ・平成29年12月19日(火)
- ・土木工学科40名、建築工学科40名(1年生 80名)



南砺福野高校



高岡工芸高校

(主な意見)※H29年度「生徒の感想文」より

- ・建設業には3Kのイメージがあったが、魅力を知ることができた。
- ・災害復旧や除雪など、社会に役立つ大切な仕事だと分かった。
- ・「地図に残る」仕事に誇りを持っていて、大変だけどやってみたいと思った。
- ・技術者の仕事は事務処理が多くびっくりした。
- ・製造業にはないオンリーワンの物を造っている魅力的なものだと分かった。
- ・女性が働きやすい職場環境に努めていることが理解できた。

- 25 -

建設業における担い手確保・育成に向けた取り組み (社会資本の役割や建設産業の魅力のPR)

県政バス「富山どぼく発見！ツアー」(H20～)

・平成29年8月1日(火)実施

- ・小学生以上18歳以下の子供とその保護者等を対象
- ・県内の土木施設や施工現場などを見学

(主な内容)

- ・ペーパーブリッジ教室 ・富山大橋の見学
- ・富山テレビ放送 元気とやま みんなのクイズ番組収録の見学

【H29実績】 30名参加
(子供17名、保護者13名)

平成29年度の様子



ペーパーブリッジ教室



富山大橋の見学

富山県立大学「ダ・ヴィンチ祭」へ建設業ブース出展(H28～)

・平成29年8月5日(土)実施

・建設業協会、建設コンサルタンツ協会、測量設計業協会と連携して実施

- ・建設業のイメージアップ、将来の担い手確保 のため、楽しみながら建設技術を体験

(主な内容)

- ・ドローンの実演飛行 ・測量体験 ・VR(バーチャルリアリティ)による工事現場体験
- ・ミニショベルの遠隔操作 ・ペーパーブリッジの製作

【H29実績】 298名受付
(高校生以下167名、一般132名)

平成29年度の様子



VR体験



測量体験

土木学会中部支部「とやまの土木見学会」(3年に1回)

・平成29年10月21日(土)実施

・土木学会中部支部と共催で実施

(主な内容)

- ・富山駅付近連続立体交差事業、富山きときと空港、富山伏木港国際物流ターミナルの見学

【H29実績】 31名参加
(中学生以下8名、一般23名)

平成29年度の様子



富山駅



国際物流ターミナル

- 26 -

平成29年度 担い手確保・育成 (一社)富山県建設業協会の取り組み

1. 高校生建設系学科生徒の保護者との懇談会	2. 高校生の保護者を対象とした現場見学会
高校生の進路選択に影響のある保護者を対象とした懇談会を実施 建設業の現状を説明したほか、高校〇〇の若手技術者や地元企業の経営者から建設技術者の仕事内容、建設業の重要性等を説明し、意見交換を行った。 ○富山工業高校 日 時：平成29年10月21日(土) 10:00～11:30 出 席 者：土木工学科・建築工学科1・2年生の保護者18名、教諭 建設業協会 竹内会長ほか協会役員2名、事務局 富山県土木建設技術企画課 会員企業の技術者2名(同校卒業生) ○高岡工業高校 日 時：平成29年10月21日(土) 14:00～15:30 出 席 者：土木環境科・建築科1・2年生の保護者25名、教諭 建設業協会 竹内会長ほか協会役員2名、事務局 富山県土木建設技術企画課 会員企業の技術者2名(同校卒業生) 意見交換内容 ・現場でどのような資格が必要なのか →技術者として活躍するには施工管理技士の資格が必要。学歴により受験できる経験年数が違うが、建設系学科の方なら在学中に学科試験を受験できる。 ・学歴によって待遇や昇進に違いはあるのか →学歴によって初任給は違うが、昇給を考慮すると同じ年齢のときはほとんど同じ給与となる。資格試験までの年数も違うが、合格後は実力次第。 ・女性が現場で活躍することについては →女性技術者だからといって特別に苦労したということはなく、職人さんは優しく対応してくれるので、むしろ仕事はやりやすい。 →近年、現場ではトイレをはじめとした環境整備が進められている。	高校生(普通科等含む)の保護者を対象に、建設業の役割や魅力を理解してもらい、子供の進路選択など将来の担い手確保に繋げるための見学会を実施 期 日：平成29年10月12日(水) 参 加 者：9名 見学場所：一般国道41号 富山高山連絡道路 猪谷楡原道路 富山県立大学看護学部施設整備工事 富山県美術館(施設見学) 質疑等 ・技術者の方々の仕事内容は →技術者は工事のスケジュールを組んで専門工事の方々へ指示を出す立場。提出書類の作成などもあり、デスクワークが大半になる。 ・専門工事とは →例えばコンクリートを打つ場合、型枠や鉄筋などを別の会社で行う。そうした専門的な作業を行う職種を専門工事と言っている。 ・高卒と大卒で、就職後の昇進や待遇は変わるのか →大手だと役員になれるのは大卒だけだが、県内の会社ではその人のやる気と実力次第。実際に当社では高卒で役員になっている人もいます。
3. ダヴィンチ祭へのブース出展	
富山県立大学が実施するダヴィンチ祭に県などと協力して建設業をPRするためのブースを出展 期 日：平成29年8月5日(土) 出展団体：(一社)富山県建設業協会、(一社)富山県測量設計業協会、(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部、富山県土木部 出展内容：ラジコン重機、建設現場VR体験、ドローンデモ飛行、ペーパーブリッジ教室、パネル展示等 来 場 者：約300名	

鹿児島県桜島火山災害調査の実施結果

○日程

平成29年10月24日(火)～10月26日(木)の日程で、国土交通省所管の桜島火山災害現場と鹿児島県庁所管の砂防事業現場の調査を行いました。

参加メンバーは、竹内富山大学名誉教授を団長にした16名で、今回はその調査団の中に、富山県立大学環境工学科学学生2名にも参加していただきました。

○現地調査

【国土交通省大隅河川国道事務所の火山砂防事業】

桜島の火山砂防事業は、桜島が現在も活動中で、南岳と桜島の火口半径2km圏内は警戒区域で立入禁止となっており、土石流の発生源対策はできる状況ではないので、土石流の流下を抑制するとともに、土石流を安全に海まで流すことを対策の基本としていました。

桜島国際火山砂防センターでは、砂防工事の現況、工事中の安全対策、火山活動の監視・観測体制と地震変動監視・観測などの説明を聞きました。

その後、現地は、大規模な噴火などの立ち入り禁止区域外で、火山土石流対策工事を実施している状況を調査しました。



白岩砂防堰堤(国指定重要文化財)



六九谷展望台



立山温泉跡地



平成 29 年度「子供防災教室(立山カルデラ砂防勉強会)」の開催結果

○目 的

- 安政 5 年(1858)の地震により、常願寺川上流の立山カルデラ内で 4.1 億立方メートルの大崩壊が発生し、その土砂が土石流となり下流の富山平野で 140 名の死者を出しました。
- 未だその半分の 2 億立方メートルがカルデラ内に堆積しており、今日の荒廃の原因になっています。常願寺川では大雨が降るたびに、富山平野に土砂を流す暴れ川となり、砂防事業は明治 39 年(1905)富山県で着手し、大正 15 年(1926)国の直轄事業に移され、現在も、富山平野を土砂災害から護るため、劣悪(不便、危険)な環境の中で、多くの人たちが働いています。
- 富山県では、「立山・黒部」の世界文化遺産登録を目指し、カルデラ内の立山砂防を中心に国際的な評価の検証・確立等に取り組んでおられます。
- 富山支部では、4 年前から、斜面防災の重要性を流域の小学生を対象に、直接カルデラ内での体験学習の場を企画し実施しており、今回は 5 回目となります。
- 常願寺川流域の小学生が、自分たちが生活している土地や、人の安全のために行われているカルデラ内の防災事業の砂防を勉強し、常願寺川の自然や砂防・治水などについて学び、斜面防災の大切さに関する教育の向上を目的としています。

○実施日

平成 29 年 9 月 1 日(金)天気:晴れ

○場 所

立山カルデラ(富山市、立山町)現地

○参加者

立山町立立山中央小学校 6 年生
(生徒 85 名、教員 4 名、案内・随行 6 名、合計 95 名)

○

主 催:(一社)斜面防災対策技術協会富山支部

協 力:富山県、国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所

○勉強会行程(小学校 8 時 30 分発～17 時着)

立山中央小学校 発⇒立山カルデラ砂防博物館⇒立山砂防事務所出発(10 時)トロッコ⇒水谷平(昼食)⇒白岩砂防堰堤(国指定重要文化財)⇒六九谷展望台⇒立山温泉跡地⇒跡津川断層⇒有峰記念館⇒立山中央小学校 着

高校生の保護者を対象とした現場見学会 概要

開催日：平成 29 年 10 月 12 日（木）

参加者：9 名（高校 1 ～ 2 年生の子供を持つ保護者等）

見学先：一般国道 41 号 富山高山連絡道路 猪谷楡原道路

説明：富山河川国道事務所、水新建設、朝日建設

富山県立大学看護学部施設整備工事

説明：県土木部宮緒課、日本海建興、近藤建設

富山県美術館（施設見学）

説明：県土木部宮緒課

保護者の質問

（猪谷楡原道路）

・ICT の導入で作業は楽になったか。

→丁張をするための人員が不要になったので、その分の人手が少なくても作業ができるようになったのと、重機の周りに人が立つ必要がないので安全に作業できるようになった。

・皆さんの仕事内容は。

→技術者は工事のスケジュールを組んで専門工事の方々へ指示を出す立場。専門工事の方々に作業内容を伝え、安全などにも配慮しながら工事を進める。現場の管理のほか、役所に提出する書類やそれに必要な写真の整理なども作るので、デスクワークが大半になる。

・専門工事とは。

→コンクリートを打つにしても、型枠や鉄筋などそれぞれが別の会社で行っており、そうした専門的な作業を行う会社の事を専門工事と言っている。

・就職する時には高卒と大卒で差が出るのか

→資格を取得するのに経験年数が必要だが、高卒と大卒で必要な年数が違う。ただ、取得できる年齢で見ると大きくは変わらない。資格を取得してからは、やれる仕事は変わらない。

（看護学部施設整備）

・高卒と大卒で、その先の昇進や待遇は変わるのか。

→大手ゼネコンの場合だと役員になれるのは大卒だけだが、県内の会社ではその人のやる気と実力次第。実際、当社では高卒で役員になっている人もいる。

・女性はどういるのか。女性でも活躍できるのか。

→業界内の女性はまだまだ少ないが増えてきており、この現場でも若い女性技術者が働いている。昔は無かったが、今は女性専用のトイレがある現場も出て女性でも働きやすい環境になってきた。育児休暇制度などの整備も進んでいると思う。



富山市立大庄小学校5年生

会

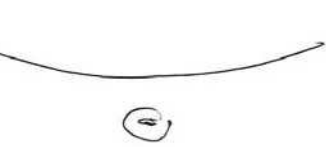
台詞と歌で発表してもらいました。防災を担当する団体として感動の体験報告を

とその作業にかかわっている作業員の方などに守られている。どの発表を判

役制について、体験学習、模範演習と講義を通して教えてもらったことなどを踏

まう、常願寺川上流での砂防防砂対策と講義を通して教えてもらったことなどを踏

■ 体 験 報 告



田中寛治執行役員総務環境事業部長

きました。

また、フルボックが地球環境問題へ貢献している事例などを紹介して説明して頂

内容としては、フルボックの開発の背景、生成方法、利用事例と利用の技術、

「フルボックについて」の技術報告をして頂きました。

国土防災技術 田中寛治執行役員総務環境事業部長からは、植物活性剤の

■ 技 術 報 告



石川芳治教授

の事例などを学術的に詳しく講演して頂きました。

ることで経費の削減と資源の循環が確立できる。」と土砂災害防止と環境保全

- ・女性だから働きにくいということはないか。
→数少ない女性なので、現場では大切にされると思う。昔は乱暴なことと言う職人さんもいたが、今そういった人は減ってきた。
→（女性技術者）女性だからと言って特別働きにくいとは思えない。職人さんちゃんと話を聞いてくれる。
- ・働く環境は良くなってきているのか
→昔は3Kと言われたが、働き方改革が進められ、当社でも土曜の休みを増やしたり、残業を短縮するような取組みが行われている。

（保護者の意見・その他）

- ・子供が建設業を好きで、自ら土木科を選んで将来も土木の企業に就職したいと言っている。自分は現場の事を全く知らなかったなので、子供が行きたがっている業界を知る良い機会だと思って応募した。今日は現場も見られて、働いている人の話も聞いたので良い体験になった。帰ったら子供とも色々話してみたい。
- ・子供はサッカー選手になるという夢を持っているが、なれるのかどうか、なれても続けられるのかが不安。もし普通に就職するとなった時に色々な職業の事を知っていれば相談に乗れると思うて参加した。今日はこういった仕事があるということや、建設現場の事が知れて良かった。
- ・現場には技術者と、専門工事の職人や技能職と呼ばれる人がいることを初めて知った。これから、普段見る現場の見方も変わると思う。
- ・技術者と専門工事の仕事内容が違う事を知って、子供は書類作りに向いてなさそうなので、どちらになりたいのか仕事内容の違いも含めて話をしてみようと思った。
- ・良い話はいっぱい聞けたけど、大変な部分も知れたかった。子供には良い部分も大変な部分も知ったうえで将来を考えてほしい。





平成29年度 建設界の担い手確保・
育成に関する取り組みについて

【石川県部会】

平成30年 2月 1日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会

平成29年9月29日(金)、(一社)日本建設業連合会北陸支部は、金沢大学理工学域環境デザイン学類(旧土木建設工学科)の学生(2年生)を対象とし、石川県内の2現場(①次期廃棄物埋立場埋立地整備現場(金沢市)②北陸新幹線、手取川橋りょう他(独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 大阪支社))の現場見学会を開催しました。

今回の見学会は、**日建連**による「**担い手の確保・育成**」活動の一環として、**建設現場のやりがい・魅力の発信**、実際の作業環境を肌で感じて、**建設現場で働くイメージの形成**を目的として開催しました。

埋立場の現場では、ICT建機による法面切土の実演や高低差数十メートルに及ぶ遮水シートの施工状況を目の当たりにし、**大規模工事のスケール感を体感**でき、「**実際に作業しているところを見れたので良かった**」との声がありました。

新幹線の現場では、張出し形式の橋梁上部工の構築状況やラーメン構造の高架部を見学し、「新幹線が通る前の軌道面を歩きながら説明を受けれたのが良かった」との声がありました。また、女性技術者が**現場案内と工事説明**の担当だったということもあり、参加した女性からも質問が活発に出たのが何よりでした。**女性技術者が現場でもものづくりに取り組んでいる姿**を実際に見てもらうことで、**建設現場で働くイメージの形成**に寄与出来たのではないかと思います。

学生からゼネコンに対する質問もたくさんあり、**担い手確保に向けての良いPRの場**となりました。

現場見学会

①次期廃棄物埋立場埋立地整備現場
(金沢市)



②北陸新幹線、手取川橋りょう他
(独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 大阪支社)



6月12日(月)	石川県立翠星高等学校	環境科学コース	3年	15名	辰巳ダム・小松バイパス大長野
6月23日(金)	金沢市立工業高等学校	建築科	3年	40名	米森鉄工・日本通運能美物流センター・佛子園西園寺
6月29日(木)	石川工業高等専門学校	建築学科	1年～4年・留学生	50名	県立中央病院
7月12日(火)	金沢市立工業高等学校	土木科	1年	40名	椎木トンネル・輪島道路
7月13日(水)	石川県立小松工業高等学校	建設科	1年	38名	県営住宅68号棟・金沢外環状道路浅野川橋
7月14日(金)	石川県立羽咋工業高等学校	建設造形科 建築コース	3年	13名	県立中央病院・野々市市新図書館
7月14日(金)	石川県立羽咋工業高等学校	建設造形科 土木コース	3年	10名	羽咋道路本江・南加賀道路粟津ルート高架橋
7月14日(金)	金沢工業大学	環境土木工学科	3年	22名	輪島道路
				参加計	7校8学科 参加生徒計 228名(赤字は見学先)

現場見学会様子



☆石川県立中央病院 石川高専
石川県中央病院建設推進室



☆小松バイパス大長野 県立翠星高校
国土交通省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所



☆野々市市新図書館 県立羽咋工業
野々市市 中央地区整備事業対策室

現場見学会参加生徒の感想

- 工事で使うICT施工の建設機械は操作が難しいと思っていたけど誰でも使い易いようになっていて驚きました。
- 全国的に作業員が減っている中で、ベテランの様な仕上がりが得ることができる情報化施工は、今後も拡大していく事業のひとつであると身にしみて感じた。
- 現場では女性はまだ受け入れられないイメージでしたが、見学中に作業員の方から「これから頑張るね」等、温かい言葉をかけてもらえて嬉しかったです。
- ICT施工にはとてもたくさんの時間がかかることとお金がかかることがわかりました。
- 見学会で重機にふれる体験ができ、大変貴重なことだと思いつつも良かったです。
- 自分にはどんな仕事か合うのかはまだわからないけど、やっぱり現場は魅力的で興味がわくなど実感しました。
- 人の流れを考えて建てることで、地域がより活性化すると、こうして建物等と人との繋がりができていくのだと思いました。

工業系高等学校生徒との意見交換会

(一社)石川県建設業協会

11月24日	金沢市立工業高等学校	建築科	2年	40名
12月 8日	石川県立羽咋工業高等学校	建設造形科	1年	30名(予定)
12月 8日	石川県立羽咋工業高等学校	建設造形科	2年	30名(予定)
12月14日	金沢市立工業高等学校	土木科	2年	40名(予定)
12月19日	石川県立小松工業高等学校	建設科	2年	40名(予定)
平成30年3月	石川県立翠星高等学校	環境科学コース	2年	20名(予定)

参加生徒計 約200名



写真は金沢市立工業高校 建築科 2年生

意見交換会について

工業高校との意見交換会は前半、若手職員(同校OB等)が自身の1日・体験等をプレゼンまたは、ICT施工等の最新技術の紹介・説明を生徒に聞いてもらい、後半は協会会員企業所属の若手職員を中心としたグループ形式にて実施している。金沢市立工業高校での開催は、同校OBより【入社から5年の間に携わった現場】【1日の仕事の内容】と題したプレゼンを行い、後輩に伝えたいこととして「仕事の上ではコミュニケーション能力が大切。将来の為にしっかり勉強してほしい」と語る年齢の近い職員との意見交換だと質問もし易く、かつ生徒が自身の近い将来の姿を想像できるようになり、貴重な体験となっている。

【建コン協北陸支部のPR 活動報告】

金沢工業大学にて、
建設のコンサルタントの仕事について説明会を実施しました。

日 時：平成29年5月25日（木）8：40～10：10

開催場所：金沢工業大学

説 明 者：（一社）建設コンサルタンツ協会北陸支部 技術部会

トンネル委員会 委員長 今度 充之

道路委員会 委員 藤本 勇一



金沢工業大学 環境土木工学科の3年生と院生を対象に、
建設コンサルタントの仕事について説明会を行いました。

動画「教えて！ケンコンさん ～建設コンサルタントの仕事と魅力～」放映後、パワーポイントでの説明、そして私どもの業務体験を紹介しました。

当日、参加された40名からのアンケートでは、建設コンサルタント業について知らなかったが、今回の説明会で理解を深めることができたという好評でした。「ものづくりやまちづくりなどを通して、ソフトとハードの社会新本整備で暮らしを支えることがわかった」「流れとして、企画立案、調査計画、設計工事、維持管理することがわかった」また、「動画は分かり易くてよかった」という意見をいただきました。



【建コン協北陸支部のPR活動報告】

金沢大学にて、
建設のコンサルタントの仕事について説明会を実施しました。

日 時：平成29年7月4日（火）10:30～12:00

開催場所：金沢大学

説 明 者：（一社）建設コンサルタンツ協会北陸支部 技術部会

トンネル委員会 委員長 今度 充之

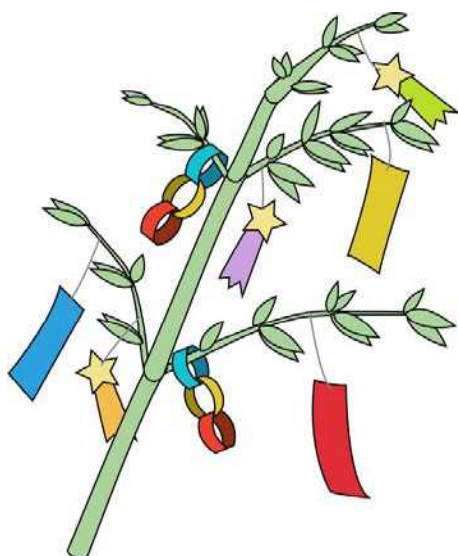
トンネル委員会 委 員 麻田 正弘

金沢大学 一年生70名を対象にキャリア形成講座のひとつとして、建設コンサルタントの仕事について説明会を行いました。

パンフレットとパワーポイントでの説明の後、今まで係わった業務の体験談を紹介しました。そして、最後に動画「教えて！ケンコンさん ～建設コンサルタントの仕事と魅力～」を見てもらいました。

4月に入学して間がなく、まだ専門の授業も受けていないので、説明の内容がどの程度理解できたかわかりませんが、生徒の皆さんは、とても熱心に聞いてくれました。

建設コンサルタントを目指そうという学生が1人でも増えることを期待しています。



【建コン協北陸支部の技術部会活動】**「平成29年度建設コンサルタンツ協会北陸支部 業務・研究発表会」
を開催しました！**

日 時：平成29年10月11日（水）13:00～17:30

開催場所：新潟市内（興和ビル10F 第5会議室）

参 加 者：（一社）建設コンサルタンツ協会北陸支部 会員 160 名

「業務・研究発表会」は、業務における優れた成果や自主研究開発成果の発表を通じてお互いの技術研鑽を図ることを目的として開催されております。

今年は、新潟大学工学部の佐伯教授による基調講演、設計コンサルタント8名による業務・研究発表、また、新潟大学や長岡技術科学大学の学生2名による研究発表が行われました。

発表会では、日頃の業務における課題や、それに対する問題点等を的確に捉え、解決に至ったプロセスやその効果・展望を熱心に説明されていました。

大変忙しい中、多くの会員企業の皆様にご参加いただいたことに対し、厚く御礼を申し上げます。



建設コンサルタンツ協会北陸支部 建設コンサルタントPR活動 実施報告

実施対象者：石川県立大学 環境科学科 （就職担当 森准教授）

実施日時：平成 29 年 1 月 6 日（月）10:00～10:30

参加人数：3 年生 27 名

配布資料：①建コンPR冊子

- ・明日の社会を創造する建設コンサルタント
- ・建設コンサルタントの仕事とその魅力
- ・建設コンサルタントとは

②会員名簿

③クリアファイル

実施者：稲葉環境委員、西川河川委員

なお、今回は、時間の関係上、アンケートは未実施。



写真.1 実施状況①



写真.2 実施状況②

— 以 上 —

建設業における担い手確保に向けた取り組み

建設業の 担い手確保



将来の担い手 確保の支援

①学生(大学・高専・短大)向け

○インターンシップフェスへの建設業者参加呼びかけ

②高校生向け

○企業ガイダンスへの建設業者参加呼びかけ

○高校訪問による入職呼びかけ

○高校生現場見学会の開催

○他業種とのコラボ企画(パネルディスカッション)

③小・中学生、一般向け(PR)

○「はだしの王国」でのブース出展

○各土木事務所でのPR

労働環境の改善

○いしかわ土日おやすみモデル工事の導入

○快適トイレの導入

○「けんせつ小町」の座談会の開催

(○ICT建設機械の活用推進)

発注者(行政)に おける業務改善

○入札制度改革

○総合評価の改善

○発注見通しの統合(試行)

将来の担い手確保の支援

いしかわインターンシップフェス

大学・高専・
短大学生向け

主に夏期休暇中に実施される

インターンシップに関する情報を企業から学生に直接説明



H29. 5. 13 産業展示館で開催
約230社参加(建設業12社)
学生約1,700名参加

新規高卒者の建設業就業者数

卒業年(3月)	H26.3	H27.3	H28.3
就職年度(4月1日)	H26.4	H27.4	H28.4
A 卒業者数(全体)	10,093	10,314	10,203
A1 進学その他 (A1 / A)	7,878 78.1%	8,106 78.6%	7,951 77.9%
A2 就業者数(全体) (A2 / A)	2,215 21.9%	2,208 21.4%	2,252 22.1%
B 就業者数(建設業)	257	212	265
卒業者全体に占める割合(B / A)	2.5%	2.1%	2.6%
就業者全体に占める割合(B / A2)	11.6%	9.6%	11.8%
C 建設系卒業者 建設業就業者全体に占める割合(C / B)	85 33.1%	67 31.6%	83 31.3%
D 非建設系卒業者 建設業就業者全体に占める割合(D / B)	172 66.9%	145 68.4%	182 68.7%

約3分の2が非建設系高校
(普通科高校等)の卒業者

建設業への就業者を増やすため、
普通科高校への働きかけ
が効果的

高校生を対象とした企業ガイダンス

高校生向け

H29. 7. 8開催



- 建設業者：36社／191社（うち県建設業協会会員企業12社）
- H30. 3月卒業予定の高校生約1,900名が来場
(就職希望者の約8割強)
- 建設業者ブースには延べ約900名が参加
(1人5社分まで参加することが可能)

将来の担い手確保の支援

高校訪問による入職呼びかけ

高校生向け

今年度は、**県内全55校を対象に高校訪問**を実施

将来の進路を見据え、**普通科高校**においても**建設業の魅力を伝える**場として、**職業講話・意見交換会の開催**を働きかけ

職業講話・意見交換会を開催

金沢辰巳丘高(6/15)／小松北高(6/16)／七尾高(8/4)／金沢伏見高(9/21)
金沢桜丘高(11/17)／金沢泉丘高(11/20)



七尾高校



金沢伏見高校



小松北高校

将来の担い手確保の支援

高校生向けの現場見学会

高校生向け



石川県高校生 土木・建築現場見学会 in 金沢

- ・H29.8.10開催（県主催）
- ・11名参加（うち女子生徒7名）
- ・新県立中央病院建設工事、
海側幹線橋梁工事 など

※能登方面（H29.8.8）は荒天のため中止

高校独自で見学会を実施

金沢伏見高校



H29.9.26
11名参加

寺井高校



H29.9.27
4クラス
約160名参加

パネルディスカッション【他業種とのコラボ企画】

高校生向け



他の業種とのコラボにより
建設業が持つ魅力を
効果的に高校生に伝える

今年度初めて実施

＜金沢北陵高校＞

- ・H29. 11. 8
- ・2年生190名参加

～生徒の声～

- ・建設業のイメージが変わった。
- ・建設業への興味が少し深まった。

今後の予定

12月19日 金沢商業にて実施予定



「はだしの王国」イベントブース出展（3回目）

親子向け

親子向け土木ブース

「目指せ！土木・建築エンジニア」を開設

H29. 10. 9 奥卯辰山健民公園で開催

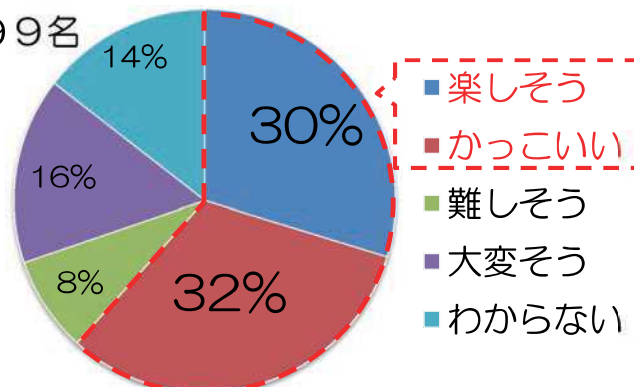
測量・重機操縦体験、クイズラリー 等
児童・保護者約700名参加

アンケート結果

Q. 「土木・建築」についてどう思うか

結果：約6割が好意的な回答

【子供】399名





重機でボールすくい



測量体験



土木実験



なりきり撮影会

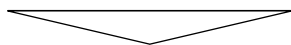


液状化実験

労働環境の改善

■背景

建設業でも、高齢化、若手入職者が減少
担い手の確保は重要な課題
近年、女性技術者も進出→「けんせつ小町」、「ドボジョ」



「けんせつ小町」の座談会

女性が働きやすい環境、公共事業のPR、担い手確保・育成等について、実際に働いている女性技術者で意見交換し、問題点を共有



日時 平成29年9月19日(火) ※昨年に引き続き2回目

場所 南加賀土木総合事務所

出席者 13名

(南加賀土木総合事務所 3名
小松能美建設業協会、加賀建設業協会 10名)



もっと頑張りたいので、
男女の区別をなくしてほしい

(子育て等で)もっと休みが
取りやすくなればよい

若者に「働く魅力が感じられる職場づくり」が重要
確実な休日の取得など処遇改善が必要



H27年度から「**いしかわ土日おやすみモデル工事**」を実施
【実施状況】 H27年度 14件、 H28年度 34件

■H28結果概要

- 休日取得率 **100%**（代休含む）
- アンケート結果（回答者87名）
97%がモデル工事を良いと回答

【主な意見】

- ・工種や規模に応じて取り組んだほうがよい
- ・適切な工期設定が必要
- ・工期が長くなり、仮設費などが嵩む、工事の利潤が低下

若者や女性など多様な人材の入職を促進するには、
建設現場を男女ともに働きやすい環境とすることが必要



H29. 7月から男女共に快適に使用できる仮設トイレ
「**快適トイレ**」を導入

快適トイレのイメージ



快適トイレの主な仕様

- ・洋式便座
- ・水洗式
- ・二オイ逆流防止装置
- ・施錠機能
- ・照明器具
- ・衣類掛けフック 等



対象工事：・6千万円以上の工事は原則実施
・6千万円以下の工事は施工業者からの希望により実施

H29年度金沢工大 環境土木工学科3年生 授業 1

「進路セミナーⅠ」: 建設界各講師による業種内容と特徴の紹介(各60分)



国土交通省



石川県庁



(新潟)三條市役所

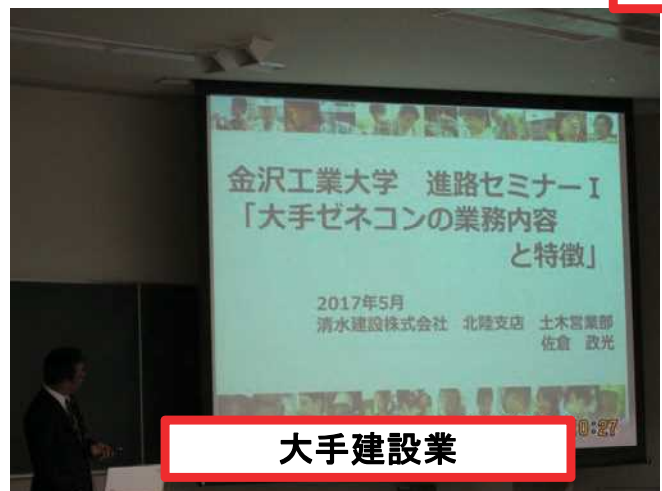


金沢市役所

2



建設コンサルタント



大手建設業



地質調査業

石川県中能登町中能登中学校防災・減災学習 地域の防災・減災の担い手とは？

1



ハザードマップづくり



2017/08/25 15:32



ドローン飛行実習



2



防災施設(砂防堰堤)学習



国交省降雨体験車で豪雨を体験





ICT技術を全面的に活用する「ICT活用工事」に取り組んでいる中、手取川の河川工事現場において、地元の工業高校を対象とした現場見学会を平成29年5月18日（木）に実施。

当日は建設科2年生39名（内女性13名）教員4名の43名が参加。ICT建機による河川土工の実演やUAV実機の操作説明自動追尾TSの実践等で、生産性の向上と魅力ある建設現場の実現に理解を深めた。

現場見学会の様子



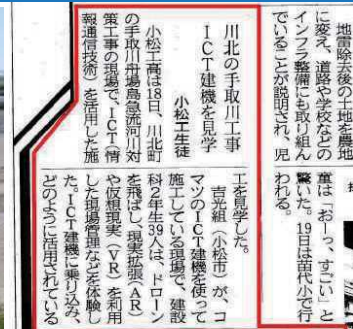
ICT活用工事の概要説明



3次元マシンコントロール（BD）による盛土



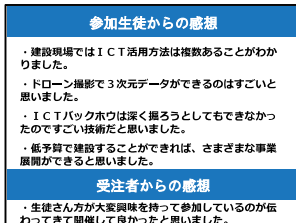
手取川



(H29.5.19 北国新聞)



AR・VR体験



参加生徒からの感想

- ・建設現場ではICT活用方法は数多くあることがわかりました。
- ・ドローン撮影で3次元データができるのはすごいと思いました。
- ・ICTバックホウは深く掘ることもできなかつたのですごい技術だと思いました。
- ・低予算で建設することができれば、さまざまな事業展開ができると感じました。

受注者からの感想

- ・生徒さんが大変興味を持って参加しているのが伝わってきて開催して良かったと思いました。



参加者によるICT建機の試乗



UAV（ドローン）の操作説明

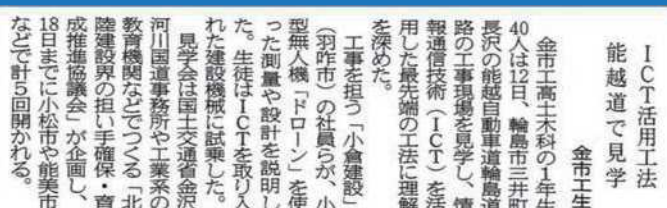


自動追尾TSの実践

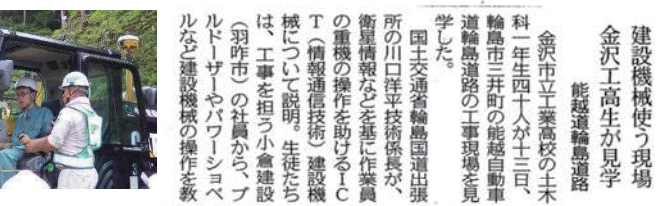
ICT技術を全面的に活用する「ICT活用工事」に取り組んでいる中、能越自動車道輪島道路の工事現場において、地元の工業高校を対象とした現場見学会を平成29年7月12日に実施。

当日は土木科1年生40名が参加。ICT建機による道路土工の実演やUAV実機の操作説明等で、生産性の向上と魅力ある建設現場の実現に理解を深めた。

現場見学会の様子



北国新聞 平成29年7月14日掲載



北陸中日新聞 平成29年7月14日掲載

平成29年7月12日 “能越自動車道,, 工事現場を見学

報道機関: NHK(かがのとイブニング)

報道日時: 平成29年7月12日(水) 18:38~18:41

報道機関: NHK(ニュースいしかわ845)

報道日時: 平成29年7月12日(水) 20:55~20:57

報道機関: テレビ金沢(北國新聞ニュース)

報道日時: 平成29年7月12日(水) 15:50~15:52



(アナウンサー)

子供たちに地元のまちづくりに関心を持ってもらおうと、輪島市の小学生が参加して、能越自動車道の工事現場の見学会が開かれました。

この見学会は、輪島市の三井小学校が授業の一環として行ったもので、全線開通に向けて工事が行われている輪島市三井町の能越自動車道の工事現場を、全校児童22人が訪れました。



(アナウンサー)

能越自動車道は、輪島市と富山県西部を結ぶ全長およそ120kmの自動車専用道路で、輪島市と七尾市にある2区間、あわせて15kmほどは、まだ開通していません。

見学会の中で子供たちは、国土交通省の担当者から能越自動車道が開通すれば観光客の増加が期待できることや災害時に救援物資を運ぶのに役立つことなど、説明を受けました。



(アナウンサー)

また、子供たちは、工事現場で距離などを測る最新の機械を使った宝探しをしました。

ドローンで撮影した工事現場の上空からの映像を見たりして、楽しみながら道路工事について学んでいました。



(児童)

道路を作る時にたくさんの器具を使っているので大変だと思いました。

(児童)

気を付けて怪我の無いようにして造ってほしいです。



能越自動車道輪島道路の工事現場において、事業の必要性や工事実施の理解を深めてもらうため、地元住民を対象とした現場見学会を平成29年10月19日に実施。
当日は地元地区の老人クラブ44名が参加。ICT建機による道路土工の活用による建設現場の進捗状況や開通後の事業効果等を交えて、引き続き実施の理解を深めた。

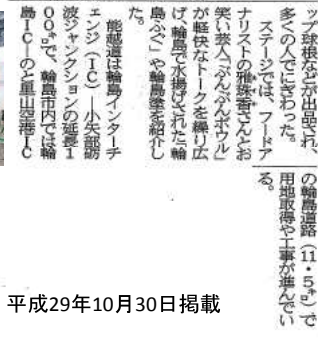
現場見学会の様子



北陸中日新聞 平成29年10月20日掲載

能越自動車の事業効果、供用区間の利用促進を図るため、「能越道フェスティバル」が関係機関の協力のもと、輪島市マリントアウンで平成29年10月29日に開催。
地域間交流促進を図るため、能登と富山西部8市と金沢・富山の事務所が連携し開催され、輪島道路区間の事業進捗や全線開通時の事業効果をPRするパネル展等に500名の市民等が来場し、事業効果と理解を深めた。

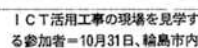
シンポジウムの様子



北国新聞 平成29年10月30日掲載

当日は若手技術者を中心に13名が参加。「生産性革命」の取り組みについて、ICT建機による道路土工の実演等を交えコンサルタントと施工業者が意見交換を行い、3次元データの施工現場の活用事例に理解を深めた。

現場見学会の様子



精度や安全性が向上する
といった利点のほか、コ
マツが開発したグラウ
ドサービス「Koomcon
nect」を導入して日々
の状況を把握して
いる取り組みを紹介し
た。

参加者はその後、現
場設備を写真に収め
たり、実際にCCTV
監視機に試乗する
などして、最新技術に
理解を深めた。



建設工業新聞 平成29年11月1日掲載

金沢河川国道事務所

道の駅の活用に関するシンポジウムが220名の参加で開催され、石田東生・筑波大学特命教授の基調講演後、関係者間で道の駅を活用した地域活性化策が討議された。

シンポジウムの様子



北陸中日新聞
平成29年11月6日
掲載

国道159号金沢東部環状道路（神谷内～東長江）の4車線化開通が迫る中、完成後の事業効果・利用促進を図るため、地元住民や小学生を招いて現場見学会を平成29年11月3日に実施。
当日は地元住民等140名が参加。神谷内～東長江間の1.8kmで整備された神谷内・御所トンネル等の車道を歩きながら4車線化に伴う、事業効果と理解を深めた。

現場見学会の様子



建設工業新聞 平成29年11月6日掲載



報道日：平成29年11月6日（月）11:40～地方ニュース
 番組名：テレビ金沢 北國新聞ニュース
 報道タイトル：梯川の分水路で完成見学会



小松市の梯川沿いの地域を水害から守ろうと川を二手に分ける『分水路』が完成しました。文化財を保護するため、全国的にも珍しい河川改修の方法が採用され、今日から見学会が始まっています。



一級河川に指定されている小松市の梯川では、43年前に川幅を広げる治水対策が計画されました。当初は、川のほとりにある小松天満宮を移転する計画でしたが、国の重要文化財に指定されていることなどから地元住民らが移転に反対。そこで小松天満宮の上流で川の流れを二手に分け、下流で合流される全国でも珍しい『浮島方式』を採用し、計画策定から21年を経て、今月、分水路が完成しました。



「歴史や文化という地域の個性を生かした形で、河川改修していただきまして、また、たくさんの方に見ていただければと思います。」
 見学会は、明日も行われます。